

自享保二年  
至元文三年

# 毛利十一代史

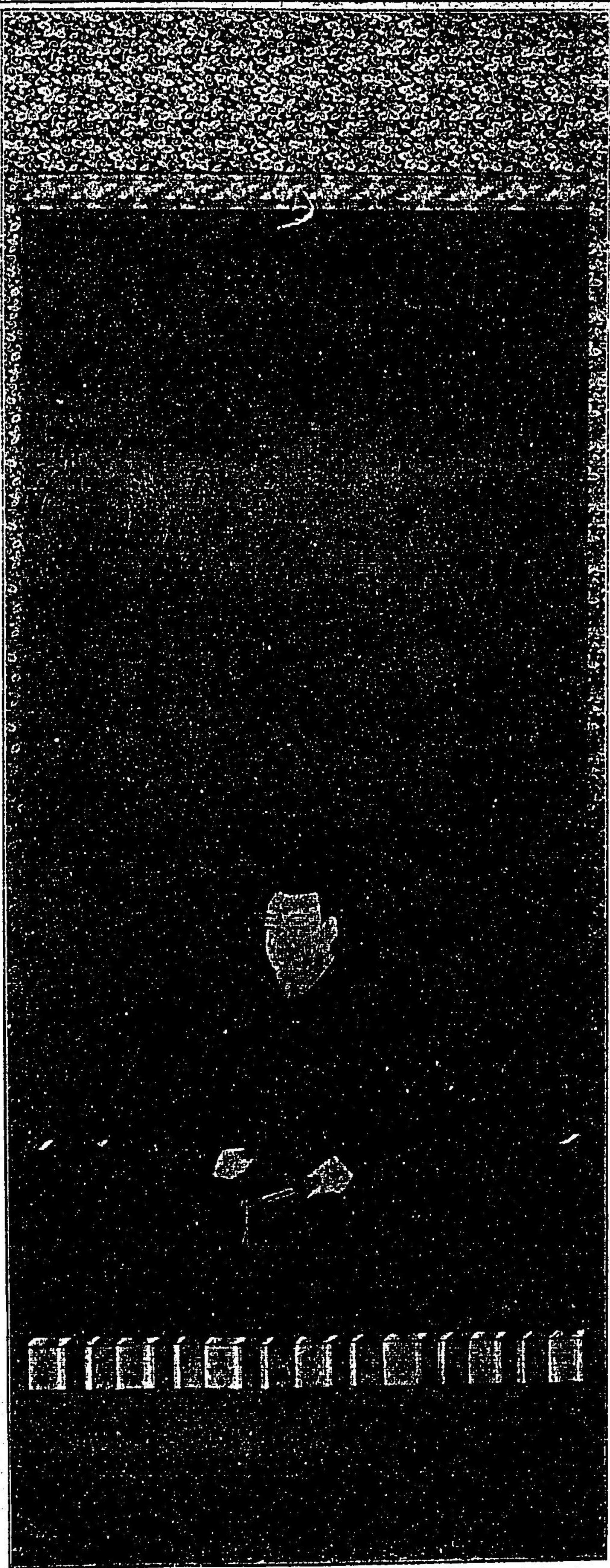
第二十四册

觀光公記

觀光公記



觀光公畫像



毛利十一代史

第十四册

自  
元  
安  
三  
年

光  
全  
記



毛利十一代史卷之五十八

大田報助編

明治  
43.10.26  
寄贈

觀光公記一

宗廣百合助 大膳大膳大夫 侍從 從四位下  
公ハ吉元公第七子實母松平伊豫守綱政女  
享保二年丁酉七月六日長門萩城ニ生ル泰桓公鐘愛賜姓左澤名百合助依テ紋ハ丸ノ

内ニ左ノ字ヲ用ユ

同六年辛丑十一月六日始着袴五歳

遺徳談林曰百合助様御袴着の事依之吉元公命乃美藏人興詮より献之被爲召候節  
興詮へ御手傳被仰付御袴着古例は小倉實廉記事に詳なり百合助様御幼年中は西  
御殿御姫様御一所に被成御座外向御出の節は御道具一本片箱御徒士三人御駕籠  
廻り御側衆計御駕籠奉行は御廊下番衆にて被濟たり



同七年壬寅四月十六日吉元公聞老水野和泉守邸ニ至リ告テ曰我近日マサニ歸國セ  
ントス若不慮ノ事アラハ實子百合助家續ノ事ヲ乞願スヘシ豫メ告上スト前年吉元  
公嫡子宗  
元君卒故ニ此儀ニ及フ其後嫡子成願セラル百  
合助君本年甫六幕府へ告テ入歳ト稱セラル

同十一年丙午正月廿八日吉元公百合助君ヲ伴ヒ玉江別邸ニ至ル

遣徳談林曰今日より對の御先箱に被仰付此外は前の通也

同十二年丁未正月朔日命名維廣

六月廿四日左澤百合助ヲ改テ松平大膳ト稱セラル十歳

廿六日大膳君宮崎社ニ詣ス吉元公ヨリ贈ラル、長刀此日ヨリ持セラル

七月六日大膳君改名ニ因リ一門老中ヲ召シ謁ヲ賜フ萩城式臺ニ帳簿ヲ設ケ諸臣ノ  
拜賀ヲ受ク

九月朔日志道太郎左衛門ニ大膳君邸手回頭都合役ヲ命ヌ又來春大膳君參府供從ノ  
命アリ

十一月朔日

遣徳談林曰今日より御奥向御アリ相成諸事御表御同様にて御側中も泊り番被仰  
付諸番所の儀御廊下番御次番相詰御表奥番頭一人宛順番にして是又泊り番被仰  
付候事

十二月四日吉元公志道太郎左衛門ヲ召シ來年正月十八日大膳君甲冑着初ニ付甲ノ  
役ヲ命ヌ同十五年己酉正月十八日始着甲冑軍神祭式及諸械陳列皆如例

遣徳談林曰

一享保十四酉の正月十八日始て御具足召に付今朝宮崎へ御社參相濟御歸の上晝午  
の刻於御對面の間御具足被爲召御床机に被懸左候て御庭へ鞍置之御召馬御馬乘  
牽せ候て罷出被遊御覽御規式の御盃事被相濟 吉元公御座敷御出被成御相對候  
に付御床机より御下御床の方下座へ被成御座御相對被濟御入の後御當役中御手  
廻頭迄名披露にて御目見被仰付着座の上記録所番頭御小性中并御小性通りの面  
々迄御目見被仰付押付御規式相濟御座の間へ被遊御入御尉斗目御半上下にて於  
御對面の間に御父子様御料理爲御相伴御當役中御手廻頭御醫師被召出候御膳の



上 御父子様御盃相濟左候て 大膳様御盃御當役の御一門衆へ被下御返盃有之  
 左候て御手廻頭志道太郎左衛門殿へ格別御盃被遣候時御小脇差頂戴被仰付候太  
 郎左衛門殿儀今日の御規式内重き役に付右の通有之候詰居の面々惣御手廻迄御  
 膳の上御通に被召出御部屋御小性中へ御料理被遣候當日役付左に記之  
 一御甲の役 志道太郎左衛門

但當日血忌に付御役は不被相勤候其所乃美藏人相勤候然共御規式諸事の儀は  
 被相勤候同様御沙汰被仰付候事

- 一御介副の役 乃美藏人 高洲藤右衛門
- 一御手傳着せ役 田北太右衛門
- 一御弓矢の役 兒玉勘兵衛
- 一御采幣役 香川二郎右衛門
- 一御軍扇役 秋村十藏
- 一御策の役 八谷源右衛門

- 一御床机の役 岡 又右衛門
- 一御銚子役 東條七郎兵衛
- 一御提の役 佐々木彌六
- 一代り御加の役 乃美傳十郎
- 一瓶子の役 重富二郎左衛門 岡惣左衛門
- 但惣左衛門事當日痛所有之御通ひ不相成に付俄に長野長左衛門勤候事
- 一御貝 福原忠兵衛
- 一御太鼓の役 諏訪權右衛門 江川平八

右御貝太鼓の儀は御目通に指出置入候節も右の衆中仕候手明御小性の儀は御  
 廣蓋御具足召の節出入仕候  
 右御具足召御規式見合緒方仲介へ被仰付前廉稽古有之候事

三月五日吉川左京經永大膳君へ謁見ノ爲出萩  
 十五日大膳君吉川邸ニ臨ム廿一日左京歸邑



廿五日大膳君萩發親書院ニ於テ一門老中へ謁ヲ賜フ寄組中御廐ノ前ニテ奉送出頭  
番頭直目付諸役人四本松へ出ツ其他諸臣奉送ナシ大膳君出府何ハ十三年十一月四日許可アリ

日不詳出府途次京都ニ入り養心夫人ニ謁セラル青雲公ノ室鷹司氏

五月朔日大膳君着府櫻田新橋邸ニ入ル

八月二日大井新右衛門ヲ以テ大膳君初謁見ノ願書ヲ提出セラル

十五日公父子登營吉宗將軍家重大納言ニ謁見父子ニ各太刀馬代卷物献セラル家老

二人毛利外記 桂主殿拜謁献物例ノ如シ

十二月廿四日先是將軍内諭アリ松平兵部大輔宗規ノ妹勝子ヲ娶ラシム於是兩家皆

乞願ノ書ヲ呈セラル此日許可ノ命アリ

同十五年庚戌九月九日大膳君五節朔望常例ノ登城今日ノ登城ヲ始トス先ニ乞願許

可ニ因テ也

十一月廿二日大膳君是ヨリ發熱廿八日ヨリ麻疹十二月六日酒湯ヲ引ク

十二月廿八日依例登營加首服吉宗將軍偏諱並腰刀ヲ賜フ備前國守代金十五枚又閣老ヨリ從

四位下ニ叙シ大膳大夫ニ任スルノ臺命ヲ傳フ拜謁献物如例今日ヨリ改テ宗廣ト稱  
セラル

同十六年辛亥四月十五日江戸目白邊ヨリ出火櫻田邸及新橋邸皆燒亡於是麻布邸ニ  
移居

六月十六日登營今日嘉祥式ヲ以テ也

九月十三日吉元公麻布邸ニ於テ歿セラル

十月七日深野小左衛門巽ニ父彌左衛門ノ科ニ坐シ流罪ニ處セラル青雲公十五回忌  
ニ對シ親族ヨリ歸島ノ請願アリ猶泰桓公逝去ニツキ赦罪ノ典モ行ハル、ニ依リ歸

島許サル

十一日ヨリ十三日ニ至ル青雲公二十五回忌大照院ニ於テ三百部修セラル

十三日屋敷間敷打ニ關シ大目付回狀左ノ如シ

近來所々屋敷の間敷打候者有之由相聞候惣て屋敷間敷改候儀は御普請奉行より  
仕事にて其屋敷へ申届候上間敷打候事に候若届を不仕候て屋敷邊間敷打候者候



は、屋敷主又は辻番より相尋不分明候へは所に留置御普請奉行又は向寄の目付へ可相届候

亥十月

十四日幸子毛利飛騨守元次女毛分利大藏嫡子伯耆室分娩女子出生

十七日大阪ニ於テ町敷ニ分テ買米ニ關シ奉行所交付書付左ノ如シ

覺

今度當地町敷に分け買米申付古來より爲買取候藏屋敷より町中へ差出有之切手を以町々より米藏出し可罷越旨無遲滯米可被相渡候右藏出し切手何枚にて米何程何町へ相渡候段藏元の町人より藏出しに來候町の年寄へ印形の書付相渡右切手を藏元の町人追て番所へ持參改請候様可被申聞候尤此方よりも藏元町人へ申渡候以上

亥十月

廿三日公ヲ閣老松平左近將監ノ邸ニ召ヌ閣老大監察列坐先公ノ遺領相續家督ノ臺

命ヲ傳ヘラル公年十五

公猶喪忌の内にありて家督の命あるは先代よりの例なり

舊記曰御屋形御歸の上於御居間書院御熨斗被成御取左候て但馬守廣豊君刑部少輔政苗君へ御熨斗出其後毛利筑後廣政毛利宇右衛門廣規益田越中元道桂主殿廣保山内總殿廣通板本彈正御熨斗被遣後出頭番頭御直目付御裏老公儀人御目見被仰付御切熨斗被遣其後内藤與三右衛門表番頭御目付御使番物頭御目見被仰付熨斗被遣右相濟御側中惣御手廻中御通り掛御目見被仰付同晩御祝の御料理二汁七菜當役中並御相伴醫師

今日より手鞠花の御目付鎗被成御持せ候

廿六日大目付交付ノ案詞ニ因リ公生國本國石高明細書提出左ノ如シ

本國安藝父松平長門守吉元

高三十六萬九千四百一十一石長門兩國一圓松平大膳大夫

亥十七歲



生國長門 居城長門萩

享保十六年十月

廿八日老中乃美仁左衛門死去使ヲシテ嫡子宇右衛門ヲ吊問セシメ香銀二枚下付

十一月二日御代替ニ付屋敷改掛へ報告書左ノ如シ

口上覺

亡父長門守遺領拙者へ被仰付候依之別紙書付の屋敷讓請申候爲御届申入候以上

十一月二日

御名丈ハ渡邊半左衛門

覺

拜領 一上屋舖

櫻田 一萬三百四十一坪半

拜領 一中屋舖

櫻田 千六百三十三坪

同 一下屋舖

麻布 三萬五千八十坪

年貢地 一抱屋舖

千駄谷村 一萬八千三百坪

無年貢地 一家來抱屋敷

赤坂今井谷 三千五百坪餘

但松平大膳大夫家來吉川左京屋敷

右の通相違無御座候此外抱屋敷町屋敷家來の者迄所持の者無御座候以上

十一月

松平大膳大夫内 渡邊半左衛門印

四日公喪期終ル

十日吉川左京經永出萩十七日萩ヲ發シ歸邑吉元公逝去ニ依テナリ

十一日江戸當役山内縫殿辭職留任

十二日諸國寺社山伏年首參賀年數及供從者笠着用城郭内乞下馬所商人牛車大八車地車荷付馬等ニ關シ大目付廻狀左ノ如シ

諸國寺社山伏來子年より御年禮に罷出候定

一當亥春迄毎年罷出候分向後三年目可罷出

一隔年に罷出候分向後四年目



一三年目に罷出候分向後五年目

一四年五年六年目罷出候分向後七年目

一七年目より相延候分は當春迄の通

但當春迄年々罷出候年よりの積を以向後御定の通可罷出候

一江戸より二十里四方只今迄の通可罷出候且又寺院惣代並代僧神主社家等名代を以御禮等差上候分は唯今迄の通可相心得候

右の通御料は御代官私領は領主並地頭より可被申付候承合候儀有之候は、寺社奉行へ可被談候以上

亥十一月

右の趣可被相觸候

雨天にて無之節供の者笠かふり候儀可爲無用旨前々相達候場所に笠かふり候儀向後構無之候自今は大手内櫻田西九大手三ヶ所の下馬前は雨天にて無之節供の者笠かふり候儀可爲無用 以上

亥十一月

右の通可被相觸候

覺

一御曲輪内徘徊仕間敷乞食體の者なとも間々相見候由に候間御番所並辻番にて心付候様可被申渡候且又下馬並御曲輪の内に近來は賣物多集候御番所並辻番より心を付多不集様可被申付候事

一前々より牛車大八車地車荷付馬又々近來は多引附候様に相聞候間左様無之様可申付候旨町奉行へ申渡候付得其意御番所並辻番人其外へも可被相觸候事

以上

亥十一月

十五日公登營家督ノ恩命拜謝セラル將軍ニ造大刀一腰御添替太刀一口御箱備前國居則  
白銀百枚縮緬二十卷馬二疋鹿毛大納言家重ニ太刀一腰御添替太刀一口御箱備前國助居



白銀百枚馬一疋鹿毛 献セラル老臣五人毛利筑後、毛利宇右衛門、益田越中、桂主殿、山内縫殿 拜謁太刀小馬代紗綾二卷ヲ献ス皆如例

十六日長府領本年夏旱魃八月十二日風雨被害左ノ如シ

高一萬二千二百二十石余

内 千一萬二千石余 田方

十八日與力御徒以下下乘橋内下駄停止回狀左ノ如シ

萬石以下御觸書の寫與力御徒以下下乘橋より内はけたあしたはき候儀先年停止候へ共近來は猥にはき候もの有之様に相聞候付猥に無之様彌可被相觸候

以上

亥十一月

同日公袖留

十九日將軍初テ鷹捉ノ雁ヲ賜フ

廿一日遊行上人萩着宿寺常念寺相府年表十一月十九日ヨリ 同日毛利筑後江戶加判

役ヲ命ス

公幼齡ニ因リ加判兩人ヲ置キ一人ハ御國加判ヨリ順番ニシテ一番手宛勤務セシム

廿三日玉川上水大通戸樋筋修復ニヨリ割合出銀ノ事回狀アリ吾藩石高三十六萬九千四百一十一石ニ對スル出銀一貫百四十五匁一分七厘四毛納付セラル

高百石につき銀三分一厘宛兩替六十目の積出銀割合なり

晦日大目付回狀左ノ如シ

明朝日日蝕付て出仕の面々九時揃に候間此段可被相觸候

十一月晦日

十二月二日梨羽源左衛門御城御番ノトキ同僚病アリ三十日雨度詰拔ニツキ米八俵下附

同日井上七右衛門檜崎吉右衛門代山代官ヲ命ス笠原新左衛門札方頭人ヲ免シ前田孫右衛門八木甚兵衛ニ札方頭人ヲ命ス檢斷福川十郎左衛門持掛給米ヲ以テ無給通



ニ加ヘ永代獄屋番ヲ命シ家業ト爲ス

三日公幼齡ニツキ近侍ノ輩行規作法ニ關シ老臣訓令左ノ如シ

條々

一殿様御若年の御事候條御與詰の面々別て行規作法能可被相勤候尤小性衆の儀  
晝夜共に御次無闕如様申談可被相詰候勿論常々御機嫌の御保養第一に被相心  
得御伽に被罷出候節も縦應御意御取はやし被遊候品有之候共御なつみ被遊候  
ては却て御容體の御障にも可相成儀候條其趣被致勘辨候儀肝要候  
御直に被仰付候御用候儀は不逮申惣て御側元の儀は別て上役下役ともに無違  
背被仰付次第可有所勤候事

附於御番所雜談され狂ひ等禁止の事

一御平生廉直正路の儀のみ被聞召馴候様に可被相心得候於御前假初も利欲色欲  
の雜話等有之間敷候事

一不依何事其役の外脇より遮て達御聞候儀聊不可有之候若品を踰たる衆於有之

は可爲曲事

一前髪有之小性衆と前髪無之衆參會可爲停止被差免候續の外同席有間敷候無據  
儀於有之は番頭衆へ達之可被任差圖候事

一諸所の御番所無闕如可被相勤就中不寢御番の儀は猶以太切の事候條其守不可  
有油斷候事

一晝夜共に節々夜着部屋被罷越候儀無用候且又右於休息所小音にても飄其音曲  
等は勿論惣て高咄可爲停止候此段番頭衆申談可被付氣候自然於無沙汰は番頭  
中可爲越度候事

一御登城其外御供の節は兼て被仰出候旨を以萬端行規作法能可被相嗜候事  
右前々被仰出候趣も有之候へ共猶又此度添削相成如此候條面々堅可被相守候  
以上

亥十二月三日

山一經殿



毛 宇右衛門

毛 筑後

六日宇佐川七兵衛嫡子佐兵衛京都勤務中倉庫ヲ穿テ銀子窃取逃走セリ佐兵衛代役ナレハ七兵衛ハ本人トシテ贖責加ヘラルヘキモ今回家督ノ慶事アルニヨリ蟄居免サル

七日日光宮廂修復成功正遷宮アリ公登營之ヲ祝セラル

九日德山領本年夏旱魃ニヨリ被害左ノ如シ

高五千五百七拾石餘

内 四千四十石 田方  
五千三十石 島方

十二日清末領本年夏旱魃八月十二日風雨ニツキ被害左ノ如シ

高貳百千八拾五石餘

内 千八百九十石餘 田方  
二百九十五石餘 島方

十五日家重大納言婚禮アリ

十六日公登營婚姻ヲ賀セラル將軍及大納言ヘ二種千匹姫宮ヘ二種五百匹献セラ

十七日御簾中端午重陽歲暮及參覲ノトキ献品ニ關シ書付交付アリ 其文略

十八日所帶方松本作左衛門京都町人用銀協議ノ爲メ上京中品行不良銀子窃取逃走セシニヨリ家祿沒收

十九日大納言婚姻終了ニヨリ諸大名登營能舞觀覽スヘキ命アリ公病アルヲ以テ之ヲ辭セラル

廿三日公登營侍從ニ任セラル

廿五日明細書提出セラル左ノ如シ

本國安藝父松平長門守吉元

一高三拾六萬九千四百拾壹石 長門一圓從四位下侍從松平大膳大夫亥十七歲

生國長門居城長門萩

同日吉川左京前髪ヲ執ル



廿七日防長兩國內八月十一日風雨且不熟ニテ田畠高七萬三千石餘被害アリ之ヲ幕府ニ報告ス

廿八日公登營謁見後閣老ヨリ侍從任官ニツキ正月二日着座ノ臺命ヲ傳フ  
同日公儀人上山庄左衛門公家督任官ノトキ勤勞ニ對シ金拾五兩下付出頭公儀人大納戸御有筆其他慰勞金各差アリ

廿九日中村孫右衛門大坂在勤中偽造切手ニ關シ不注意アリ御意銀八百目ノ半額減少本年末ヨリ銀四百目貸與セララル

月日不詳吉元公記

紀州邊播磨より中西國筋うんかと云虫有之大飢饉死人多し

御類燒以後江戸御屋形外長屋材木於御國切組被仰付普請頭人坂九郎左衛門時存

作事

入目千五百貫目餘當正銀也

米價正銀目に付三石二三斗と云々

當職堅田安房加判毛利外記毛利筑後毛利伊勢

享保十七年壬子正月朔日公江戸邸ニ在リ歳首諸式舊規ノ如シ

二日公登營謁見太刀馬代献セラル杯酒及時服ニヲ賜フ例ノ如シ

着座ノ次第仙臺中將

筑前侍從

米澤侍從

松平越前守仙臺中將嫡

長門侍從

是時公こよりの御掛緒にて登城なりしに松平越前守紫掛緒を用るに由り營中に  
て紫掛緒に掛替らる

七日公登營任官拜謝ノ禮ヲ爲ス献物如例又使者ヲ上京宣命拜受及飛鳥井左衛門督  
ヨリ紫組冠掛免許ニヨリ禁裡仙洞及其他献物亦皆如例

廿二櫻田邸御座ノ間營繕勤勞ニヨリ矢倉頭人其他慰勞金品下付アリ人名畧

廿五日公前髪ヲ除カル

廿八日去年公參府以來類燒代替等劇務ニ從事セシモノ賞與左ノ如シ



遣吳服一ッ宛 銀子五枚宛

手子役 津田市左衛門

山内縫殿手元田中九郎右衛門

遣吳服一ッ金子貳兩

遣吳服一ッ宛金子壹兩宛

大檢使 木原小左衛門

安間佐左衛門

遣吳服一ッ宛

遣吳服一ッ金子壹兩

金子貳兩

銀百目宛

矢倉頭人 檜崎久右衛門

同 尾寺長左衛門

大檢使 田坂小左衛門

山縣市郎兵衛

勤方 植木五郎右衛門

筆者 瀧野喜左衛門

中取檢使 高津彦左衛門

用方檢使 平岡四郎左衛門

赤穴三左衛門

津森清兵衛

來原與三右衛門跡

御用所 境小左衛門

扣物方 遠藤七郎左衛門

直横目 山田太左衛門

津田市左衛門

山内縫殿手元役 田中九郎右衛門

尾寺長左衛門

銀八拾目宛

金壹兩

召下小袖一ッ宛

山内縫殿手元役

二月五日周防國玖珂郡岩國街失火燒亡人家百拾五戸之ヲ幕府ニ報告ス

六日乃美藏人公幼齡ノトキヨリ出府數年傳役與番頭兼務勵精盡瘁ノ功ニ依リ寄組ニ加ヘラル

九日大組頭兒玉五左衛門ニ手回組ヲ兒玉中務ニ大組頭ヲ命ス大組頭國司圖書ヲ手回頭格ニ加フ渡邊小三郎ニ大組頭ヲ命ス

十一日大坂町人用達上田三郎左衛門濱方渡米六萬四千四百俵餘和市ヲ定メ銀ニ換



算シ千七拾七貫目兩度調達ニ依リ金屏貳雙箱肴下付泰桓公逝去ノトキ金子五千兩銀五百九十三貫目餘出財ニ付紗綾五卷上田三郎左衛門同三卷宛息長次郎嫡孫西村金太郎俵子百俵手代三人へ下付又去秋以來多額ノ用銀提出地江戸財計ノ急迫ヲ補助シタルヲ以テ縮緬十端鹽鶴一雙上田三郎左衛門ニ縮緬五端宛上田長次郎西村金太郎へ銀子八拾五枚手代四人へ下付五月十八日公歸國ノ途次大坂ニ於テ脇差一腰上田三郎左衛門へ紋付羽織一同長次郎下付大坂頭人井上源三郎へ召下帷子一金拾五兩檢使高木清藏へ同五兩差引方三輪源右衛門永原瀬兵衛ニ同壹兩宛下付去年以來財用ノ爲メ盡瘁ノ勞ニ依テ也

十二日吾藩出身江戸浪人醫尾崎宗達去々年來公ノ病痾診察療効アルニ由リ五拾人扶持ヲ以テ採用セラル

廿一日將軍及大納言ヨリ初テ歳暮ノ内書ヲ賜フ

廿二日毛利刑部少輔長府ヨリ分知以後初テ領地ニ賜暇公ヨリ乞願アリ四月十八日許可ニ因リ將軍ヨリ縮緬五卷大納言ヨリ紗綾三卷下付

廿八日岩國領火災アリ吉川家ヨリ幕府へ直ニ申告セリ違例ナルヲ以テ閣老其他交渉ヲ經テ藩家ヨリ報告スルコトトナレリ

周防國玖珂郡ノ内岩國川西町二月五日出火燒亡左ノ如シ

一侍屋敷四戸

一足輕家二戸

一町家六十五戸

一百姓四十二戸

一死人女一人

三月五日諸大名參勤伺ニ關シ訓令左ノ知シ大目付  
回狀

一參勤伺の儀四月御暇被下候面々は其年の十一月中、六月御暇被下候面々は翌年

二月中、先格の通被相伺候様可被心得候

但右兩月の外被下御暇候面々其外も前々被伺候時節可被伺之

右の通萬石以上、并交替いたし候寄合へ可被觸候

十二日毛利主水正師就乘船四月六日着府

十三日瑞聖寺去春類焼ニ罹リ寺再建ニツキ乞願アリ銀百枚合力セラル



十五日泰桓公ニ勤仕セシ奥番頭ヲ始メ小性其他用務ナキモノ免職外様へ出シ又手  
回ノ中石足ノ輩ハ大組ニ加ヘ又遠近付寺社組ニ加フルモノ曾禰頼負外三十二人  
廿一日阪九郎左衛門編輯本朝官位相當ノ圖中華曆代帝王僭偽ノ圖出版許サル  
廿五日養子ノ制閑老交付書付左ノ如シ

一部屋住に而罷在候者は養子願の儀差控來候へ共向後は部屋住の者も養子可仕  
年比迄實子出生無之筋目相應の者有之歟又者娘等有之翌養子願申儀可爲勝手  
次第候勿論願の儀は親共より可相願候

廿九日毛利主水參勤拜謝ノトキ五萬石以上ノ格ヲ以金馬代献上ノ事吾藩ヨリ幕府  
へ乞願アリシモ許可ヲ與ヘス以後參府ノトキ左ノ通り献セラル

將軍へ太刀一腰縮緬五卷馬代銀一枚大納言へ太刀一腰馬代銀三枚籠中へ白銀三  
枚三枚ハ五萬石以上ノ格也

同日嬭ニ攝州天王寺修補ニツキ勸化ノコト大目付ヨリ回狀アリ公ヨリ銀十五枚諸  
臣ヨリ十枚寺社町村ヨリ十枚寄附決定セシモ列侯協議ヲ經テ增勸化十枚合計四十

五枚納付セララル

同日重見與三左衛門ニ三戸長左衛門代紙奉行勘定奉行兼務ヲ命ス原林齊勸方助筆  
數年勤勞ニ依リ束髮ヲ命ス

四月朔日榎本彈正數年ノ功勞ニ因リ老中ニ任シ江戸留守居役ヲ命ス召下袷上下一  
具下付

四日毛利刑部少輔初入部ニツキ請願アリ金百兩合力セララル  
七日警火ノ制大目付回狀左ノ如シ

屋敷々々の火の元專入念申付且又晝夜廻り番等に至る迄無油斷可申付儀候へ  
共をろそかに有之やうにも相聞候屋敷内外廻り等不相達候共主人々々より兼  
て心得取計も可有之事候處通達無之候へは其通の様心得懈怠も有之由沙汰有  
之候左様には有之間敷事に候且又召置候下々の内惡黨も入交有之由風聞も仕  
不逮申候へとも入念途吟味常々堅被申付尤候

右の越萬石以上の面々へ可被相觸候以上



四月

十五日毛利主水正就參勤拜謝

十六日閩老酒井讚岐守ヲ使トシ始テ歸國ノ暇ヲ賜フ將軍ヨリ紗綾二十卷銀子五十

枚大納言ヨリ縞紗十卷ヲ賜フ如例十八日公登營拜謝又刀備前包長代及ヒ馬ヲ賜フ

十八日毛利刑部少輔初テ賜暇ニツキ將軍ヨリ縮緬五卷大納言ヨリ紗綾三卷ヲ賜フ

廿日萩城ニ曲輪南方土橋東方堀際石垣高一間長十九間餘孕出同西方堀際塀下石垣

高一間長十一間餘孕出此内二間餘潰崩修築ノ請願許可アリ

廿四日毛利刑部少輔江戸發途ニツキ袷羽織二押掛五掛干鯛一箱餞セラル五月十八

日清末初入部ヲ祝シ太刀馬代晒布十匹一荷二種進セラル

廿八日江戸留宅居板本彈正幸橋夫人裏老八谷五兵衛ニ黒印令條ヲ授ク

廿九日有章院殿十七回忌増上寺ニ於テ修セラル公歸國暇ヲ賜ルモ發途以前ニツキ

是日參拜アリ香奠銀五枚納付

廿八日廿九日氷上山ニ於テ法會修セラル銀三枚納付名代惣奉行福原豊後

二日公江戸發駕京都ヲ經テ養心夫人ニ謁シ又所司代牧野河州ニ抵ル播州佐越湊ヨ  
リ上船防府三田尻ニ達ス是時村上圖書國元ヨリ佐越ニ到リ公ヲ迎フ是レ初入國ニ  
由テ也

十日此比類焼ノ邸宅皆瓦葺ニナサシム各恩貸アリ徳川十五代史

閩五月朔日山城六孫王社修復ニツキ萬石以上輩へ勸化ノコト大目付ヨリ回狀アリ

三日公歸城即日謝恩使穴戸美濃ヲ出府セシム六月朔日登城將軍父子ニ拜謁献物如

例

初入國ニツキ各殿ヨリ祝品及三田尻山口佐々並へ出迎又歸城當日之次第等日記

ニ詳載セリ先格ニ同シキヲ以テ略ス

同日會彌吉左衛門ニ長壽夫人裏老本役ヲ命ス

五日去月萬石以上屋敷類焼ノ聲管作ニ關シ大目付回狀左ノ如シ

去年萬石以上屋敷類焼ノ面々普請段々出來候所未長屋等迄不建モ有之由相聞候  
御曲輪邊左様ニハ致置間敷事候ノ間早速普請可被申付候本家ノ儀ハ一兩年延引



候分ハ不苦候

以上

子閏五月

右ノ通可被相觸候

十月初入國以後始テ將軍家位牌へ參拜金二百匹納付洞春寺へモ亦同シ

十一日長崎奉行へ初入國報告ノ爲メ使ヲシテ太刀馬代干鯛一箱贈ラル

廿三日始テ天守樓及要害ニ上ラレ又一門已下ニ饗膳ヲ賜フ如例

廿九日徒士ニ水練稽古日ヲ定メ修業スヘキヲ當役ヨリ徒士頭へ訓令ス

六月六日醫員小倉梅軒七十歳餘ニ達ス隱屋ノ乞願ヲ許シ先年命令ノ如ク持掛高二

百十五石ノ内五十石ヲ以テ醫業ニ採用殘百六十石ヲ息勘右衛門ニ給與シ大組ニ加

フ

十二日長府及清末領五月中旬ヨリ閏五月下旬ニ至ル大雨洪水ノ爲メ被害景况幕府

ニ報告左ノ如シ

一田島否高五千七十石

一堤土手切レ十三ヶ所

一同半切百二十四ヶ所

一土橋落二百四ヶ所

一往還損十里

一井手落四百五十五ヶ所

一倒木四百十三本

一川土手七千九百八十間切

一練塀崩百五十四間

一岸崩百五十間

一藏崩一軒

一垣損十軒

一決家貳軒



一同牛馬屋六軒

一流家貳軒

一流木三百本

同日馬場先後房綱廣公總女頼子管作ニツキ請求アリ銀貳十五貫目合カセラル

同日近年諸臣へ苛重ノ出米課セララルニ依リ貸與ノ米銀消却ニ關シ訓令左ノ如シ

御勝手御不如意付無據近年御家來中より重き出米被仰付候當年の儀は御初入國の御事候へは旁以御馳走米被返遣度儀候得共年來御不勝手の上去年大坂表不慮の御損失去年江戸表の御大變彼是被差<sup>ツ</sup>御所帶の御積り莫太の御不足に付不被任御心候御家來中も近年別て令困究候段兼て被聞召上の御惠の儀段々吟味被仰付候得共御所帶至極の御差詰付御馳走米被返遣候儀不相成程の御事候へは格別御救も不被爲成御氣毒被思召候然共御家來の不勝手差捨被置候様不被爲成儀に付當春江戸表より一人大坂被差登御家來借の心遣被仰付猶又御國元よりも安房手元役差登段々其手遣被仰付候所餘分の儀は不相成候得共

少々は當年中に追々銀子可差下由御用聞共の内請合候條右の銀子差下次第高百石付正銀貳百目宛貸渡可被仰付候返濟の儀は三ヶ年賦の申談に付來丑の暮より卯の暮迄年を追手取石を以納方被仰付候利分の儀は爲御救以公銀納替可被仰付との御事候且又御家來中爲取續去る酉春以來追々米銀貸渡被仰付候右御貸米銀の儀別紙の通米高壹萬千石餘札銀七百五拾貫目餘爲御救不殘可被捨遣旨候

右の通御家中の不勝手別て御苦勞被思召上方表借銀の心遣被仰付尤當春安房へ被成御書猶又先頃御直にも段々被成御意候付當役中申談種々途吟味偏御惠の筋を以て酉の春以來の御貸米銀被捨遣事候間御家來大小身とも隨分被致儉約且々も取續途御奉公候様可有覺悟候此上若不考御時節不心得の愁訴等被申出候衆於有之は可被逮御沙汰候右の趣組支配中へも能々可被申聞候以上

子六月

山 縫 殿  
堅 安 房



毛	伊勢
毛	宇右衛門
毛	外記
毛	筑後

子六月十二日

御貸米銀拾りに被仰付候廉書

覺

一米貳千六百八拾石

但去る酉の二月五月兩度臨時御貸米として貸渡被仰付候分

一札銀六拾三貫目

但去る戌の暮貸借無之に付御手廻組以下繰卷銀として貸渡被仰付候分

一米千八百三拾四石

但去る亥の春臨時御貸米として貸渡被仰付候分

一札銀貳百五拾五貫八百五十壹匁

但去る亥の暮寄組以上より無給以下迄繰卷借として貸渡被仰付候分

一同四百三拾壹貫三百九拾八匁

但當子の春寄組以上より無給以下迄貸渡被仰付候分

一米三千貳百拾四石三斗

但去る亥の暮寄組以上より無給以下迄貸渡被仰付候分

一同千八百三拾貳石

但當子の春臨時御貸米として貸渡被仰付候分

一同千四百四拾六石

但當子の夏臨時御貸米として貸渡被仰付候分

合銀七百五拾貫貳百四拾九匁  
米壹萬千六石三斗

右去る酉の暮以來御貸米銀の内一ツ書の廉近年重き御馳走被仰付下々も困窮の儀に付不殘被拾遺事



七月三日八組中家計切迫ニツキ屢組頭ヨリ歎願ニ關シ訓令左ノ如シ

組中勝手差詰候付毎々御取續けの儀頭々より頻に被相願候爲組頭は左様も可有之候へ共公儀御所帶至極御差問の儀就中去冬以來は御家督砌別て御國中御靜謐に無之候はては公邊の御首尾旁大切の御時節殊御條目の旨も有之所上を不憚ささ敷寄合を催し同意せざるものをも人數多相進め頻に及愁訴候面々も有之候由相聞候都て不勝手には可有之儀に候へ共御時節の考も無之甚以不心得の事に思召候然は右の者共只今可被遂御僉議儀候へ共御初入國目出度折柄の儀其上兼て御救をも被成被遣度時節旁に付先何分の不被及御沙汰候向後以不心得の及愁訴者於有之は人々委敷遂僉議可被差押儀勿論に候尤訴猶不相止類をも引可申越候か或は一組の内其筋別て令世話人をも相進候族等有之にをいては内證にても被付氣令僉議御爲の儀候條有體に可被申出候若可有僉議儀を無其儀又は可被申出儀を於被差扣は頭々越度に可被仰付旨候將又惣て組中愁訴等の儀公儀御持方を離れ一篇に申叶候儀を肝要の様に被相心得取次可被申様無之其上御家中組支配

等數多の儀候處御救の儀被相願候儀八組に限頭取の様に被存頻に可被申出様も無之越不能申候事

子七月三日

十一日萬代甚左衛門御木屋鍛冶方勤務中倉銀九百目竊取ノ事判明シ斬首ニ處セラ  
ルヘキモ御代初ニ對シ家祿沒收遠島ヲ命ス嫡子長三郎父ノ科ニ坐シ流刑ニ處ス  
十二日目安箱投書ノ制訓令左ノ如シ徳川十五代史

一評定所前箱へ訴狀入候もの江戸宿付無之候共所付有之候は、呼出申聞候儀又  
は叱可申事等有之節近郷にて其日歸に罷成候程の所呼出可申候夫より遠國候  
は、御料は御代官私領は地頭へ申達於其所申聞又は叱候様に可仕候

但遠國に候とも品により其もの呼出し可取計儀は只今迄の通たるへき事

十七日陣僧井上慶友江戸ニ於テ逃亡ニツキ給米沒收嫡子玄古陣僧雇ニ採用セラレ  
シモ父ノ科ニ因リ給米沒收

廿一日當役山内縫殿辭職留任來年江戸供從ヲ命ス刀一腰無銘三原代下付



廿三日ヨリ廿四日ニ至ル家督ヲ祝シ諸臣ヲ享セラレ

同日中川與右衛門ニ與番頭役ヲ命ス赤川又左衛門ニ右筆副役ヲ命ス

廿八日當職堅田安房辭職ヲ許ス

廿九日井上與三右衛門ニ大和四郎左衛門代表番頭ヲ命ス飯田六郎兵衛手元役ヲ免

シ山縣市左衛門ニ後任ヲ命ス六郎兵衛ニ時服下付

八月朔日江戸加判毛利筑後ニ當職ヲ命ス再役也

二日ヨリ三日ニ至ル萩城ニ於テ能樂ヲ催シ衆庶ニ縦觀セシムルコト如例

六日仙洞崩御法皇院元國內十六日ヨリ廿日ニ至ル鳴物停止十一日諸大名惣出仕廿五

日使者竹中六郎右衛門ヲ上京弔書ヲ勸修寺大納言ニ呈セラレ如例又香奠白銀百兩

ヲ泉涌寺ニ獻納セラレ勸修寺如例

十一日進藤勘兵衛右筆ヲ免シ羽仁五郎左衛門ニ後任ヲ命ス平川長左衛門藏元役ヲ

免シ檜崎吉右衛門ニ後任ヲ命ス宇野與一右衛門ニ所帶方ヲ命ス

十二日吉川左京出萩晦日ヨリ歸邑

同日萩地大雨阿武川洪水大橋流失

草舎年表曰川上十二郷山崩家數百七拾軒破壊人畜死亡多シ

本年五月中旬ヨリ閏五月下旬ニ至ル大雨數度豊浦郡濃兩郡尤甚シ流失人家七十八

傾覆人家二百五十死人二十之ヲ幕府ニ申報セラレ

十四日寧姫吉元女元毛利主水正ニ定婚ニツキ内藤新右衛門ニ裏老ヲ命シ黒印令條ヲ授

ク

十五日井上半右衛門ニ郡奉行ヲ命ス又奉行坐ヲ置

廿三日法林夫人新橋中屋敷竣成ニヨリ移徙

廿八日岡本七郎兵衛病死懷妊ノ子ニ跡職請願沒收ニ關シ命令左ノ如シ

岡本七郎兵衛跡

右七郎兵衛妻令懷妊候間男子出生仕候は、家續被仰付被下候様若女子出生仕候

は、其節養子の儀親類共より可申上候條被立遣候様にと申出置七郎兵衛事令病

死候付段々令僉議候處萬治御制法以來例格も不相見偏私ケ間敷願に付御法の旨



を以跡職の不及沙汰七郎兵衛持掛り知行不殘沒收被仰付候事

是月防長二州ノ人員簿ヲ幕府ニ上呈セラル總員四十八萬六千四百八十五人内十男二

萬六千八百八十二人女二會テ人員調査ノ幕令アルヲ以テナリ

享保十一年以後七年毎に諸國人員改提出すへき幕令あり本年其期に當る

九月三日西海山陽四國蝗災アリ米拂底ニツキ閑老交付書付左ノ如シ

一西海四國山陽筋作物に虫附米拂底の由に候依之北國出羽陸奥駿河遠江三河尾

張美濃伊勢邊領地有之面々上方へ米相廻候儀只今迄も可相廻候得共彌今年は

可成程は多く大坂成共右の所々に成共勝手次第可被廻候賣買のもの米をも其

趣にて廻し候様に可被申付候以上

右の趣萬石以下とも可被相觸候

子八月

西國四國中國筋其外作毛虫付損亡の由相聞へ候夫に付諸國よりの商米例より

多積廻し候筈に相觸候拂底の様子次第御料所の米も差遣相拂ひ候儀も可有之

候此段は於大坂土岐丹後守より相違品も可有之候爲心得申通儀に候以上

子八月

右の趣萬石以上以下へ可被觸候

五日敬門院去月晦日薨去是日ヨリ七日ニ至ル鳴物停止聞者交付

敬門院は東山院御母にて當今には實の祖母なり女御にて入内なき故御局なれと

も國母となし門院にならせらるゝを以て九月十五日より十七日に至る國內鳴物

停止せらる

十日泰桓公石塔竣成ニツキ供養ヲ修セラル

十一日ヨリ十三日ニ至ル泰桓公一周忌東光寺ニ於テ修セラル公日々參拜江戸瑞聖

寺ニ於テ一夜越法會修セラル銀三拾枚米貳拾俵納付

十三日公初入國且泰桓公一周忌ニツキ赦罪人員左ノ如シ

歸島 岡 六 次 郎

中村 彦 五 郎

藤井市郎左衛門

加 藤 熊 槌



右は父の科に坐し流刑に處せられし者

入耶左衛門嫡子 田中 龜之助

五右衛門二男 岡 傳吉

中兵衛嫡子 中村 萬二郎

武右衛門二男 遠藤 孫三郎

市郎兵衛二男 三好 百合之助

彌左衛門二男 深野 幾之進

同人大男 同 幾三郎

中兵衛二男 中村 彦松

武右衛門嫡子 遠藤 長槌

市郎兵衛嫡子 三好 吉三郎

中兵衛弟 中村 新八

同人嫡孫 同 小源太

右は父の科に坐し處罰せられたるも幼少につき赦罪一列の詮考を以て放免

作左衛門嫡子 山崎 半七

右は父の科に坐し放逐に處せられたるも國中出入免さる

島田四郎右衛門

右は實子あるを隠し養子を乞願せしに由り遠島に處せられしも赦罪一列の詮考を以て歸島免さる

十八日大檢使田坂半左衛門ニ田中九郎右衛門代リ用所役ヲ命ヌ

十月朔日大組番頭横山五郎左衛門平番大組馬持中島忠兵衛小身通村田傳右衛門櫻

田ヨリ麻布ヘ日勤所勤上皆所勤ニ因リ銀八拾目ヲ貳歩引ニシテ六拾四匁宛下付

二日拂米商賣米ニ關シ大目付回狀左ノ如シ

先達而相觸候通駭河遠江三河尾張美濃伊勢邊御領私領より米大坂へ可相廻付て  
拂米商賣米の船此方より差圖有之迄は江戸入差留可相達候御年貢米武家扶持方  
米は御代官領主より斷次第可相通旨浦賀奉行へ申渡候間可被得其意候  
右の趣可被相觸候以上

子九月

十一日關東筋置米ニ關シ大目付回狀左ノ如シ

一今年は關東筋作毛宜の由相聞候の間先達て申通し候ことく彌置米の儀可成程  
は多可被申付候以上

子十月



右の通萬石以上へ可被相觸候

十七日公初入國以後洞春寺安置ノ東照宮參拜喪服終了ニ依テナリ

同日西丸火番野口兵三郎處刑ニ關シ大目付回狀左ノ如シ

此度西丸火番野口兵三郎儀支配御目付高山安左衛門名ヲ僞手形文言に認ニ宮官次と申浪人より致借金侍に不似合仕形に付死罪被仰付候官次儀も僞との事存なから貸候儀に付死罪被成候自今も右の通候儀有之にをいては貸候者も可爲同罪候條此旨末々に到迄可相心得候

右の通可被相觸候以上

十月

十一月二日都野新八公歩行ノトキ行列へ行掛リ敬禮ヲ失ヒ緩怠ノ科ニ依リ逼塞ヲ

命ス十二月十一日平素行狀不良ニツキ隱居ヲ命ス

同日黒澤孫左衛門ニ表番頭ヲ命ス

四日先是公ノ姉寧姫毛利主水正師就ニ許嫁八月萩地ヲ發シ九月着府是日日ケ窪邸

ニ入輿婚儀ヲ舉ク

十五年日本年蝗虫ノ爲多額ノ被害ニ因リ奉文訓令左ノ如シ

當年作毛虫付於于今は夥敷損亡に相成御内外至極御差間被成上々様方へも被掛御苦勞御家來中御持方の儀も被思召候様に不相成旁御氣毒の至候然共古今無之大變の儀別段被絶御方便候條上下共に如何様にも來秋迄の儀且々取續候様兼て銘々致覺悟御奉公可仕旨御意候事

同日毛利大藏井上市正老中六十歳以上ニ達シ絹布ノ下着許サル居七十歳以上又ハ免許ノコト享保八年ノ箇條ニ見ヘタリ

日不詳内藤新右衛門寧姫へ付セラルルニツキ公及老臣ヨリ訓令アリ例文略

日不詳寧姫裏老内藤新右衛門へ仕渡米銀ニ關シ訓示左ノ如シ

覺

一御裏へ御郷より御仕渡米八百石外に銀拾貳貫目年々被進之筈候條右の米銀を以御内外の儀何篇御間合候様可有心遣候事



一御裏向物每格式有之といへとも其品々に應し萬事御造佐入減少候様に常々御取次役へ申聞遂僉議御勝手能様可有沙汰事

一御銀子請拂の儀一切御取次承届御手前正手紙肩印等の間何れも證據詰にして御銀子方より拂の沙汰可被申付事

附米銀其外請拂の算用一ヶ月切に引しらへ一ヶ年切に勘定相調させ御方御局被承届算用なかし候様に可有沙汰事

附諸勘文御取次可爲奥判事

附御臺所諸事請拂の儀時々見届の者印判詰に可被申付事

一御到來の金銀並諸色御拂の代銀御納戸銀に可被相備事

一御道具方役人被定置候條諸御道具魚抹に不仕請渡旁念を入可被申付事

右の通被仰付候條可被得其意候御裏御遣方の儀は彌遂吟味此大格を以諸沙汰可被申付候以上

享保十七十一月

山 縫 殿御印判

毛 伊 勢 同

内藤新右衛門殿

十二月朔日柏村半右衛門遠近付ニ加へ三田尻勘場兩人役ニ命ス

四日益田玄蕃就賢死去年六十一

六日過八月所在蝗蟲俄然群起延蔓田稻立ニ倒ル蓋古今ノ凶歎也於是九月廿八日幕府へ乞願シ金貳萬兩米壹萬六千石ヲ貸借シ賑救ノ用ニ充テラル金米皆年賦上償今日マタ枯

荒總額田畑高二十九萬二千七百四十石七斗九升二合五勺ナルヲ幕府へ上陳セラル同日十一月晦日周防玖珂郡高森驛失火神社三佛宇三人家百八十ヲ焼亡ス幕府へ上申セリ

是歲風雨及蝗災稀世ノ凶歎ヲ以テ諸邑ノ困乏不可勝言於是享保十四年以來數度貸與ノ負債銀合七百五十貫二百四十九文目米總計一萬千六百三斗ヲ消却シ更ニ祿高百石ニ正銀二百目ヲ度トシ貸與シ無利子三年賦償却セシム

此條ニ對スル訓令ハ本年六月十二日ノ欄内ニ載ス參觀



シス

今茲古來未曾有ノ凶荒而惡疫猖獗飢餓死亡頗ル悲觀慘狀ヲ極ム之ニ對スル儉政救恤方法草會年表ヲ摘錄スレハ左ノ如シ

一享保十六年<sup>辛</sup>初秋より紀州四國九州播磨より下中國筋不殘田地にうんかと云虫付候て米穀押並枯牛馬死亡大飢饉にて餓死人不知數其上疫病はやりて非人犬迄死亡數不知犬の病はしかとか唱候是も犬疫病也大飢饉に公方様より中國筋西國筋へ大坂よりは不及申江戸北國筋より米穀を急度御廻し被成候御下知甚敷其上御國主御領主へ拜借金被仰付御返濟の儀は子の年は不及御沙汰丑の年より三ヶ年に御返上の儀被仰出候尤米をも諸所入用次第に御買せ被成候代金の儀は百日延と被仰出候て西國筋の飢饉を御救被成候事御當家へも金二萬兩御拜借被仰付候尤此内長府徳山へも右御拜借の内を石割にして御配被成候右兩國飢饉に付一切手堅き御儉約被仰付子丑寅の年迄は一切献上物其外諸御勤事被差留猶又御家督の御祝儀御振舞等をも被差留候

一子年より御大名御小名方御參勤交代如古法番被仰付候一年宛江戸御詰一年宛御在所被成御座候様に被仰付候

一御國中虫枯に付て飢饉依之丑年江戸御參府の砌公儀へ被仰出候趣左記

去秋御國中虫枯損亡高二十八萬五千百石餘水損高七千六百石餘殘所務七萬六千六百石餘

一去冬以來及飢候程の者多く候由相聞候故兼て凶年の自分貯置候米麥其外雜穀鹽等追々被遣候餓死の者無之様に其所被預置候御代官並下役人等無緩心遣可仕由被仰付去秋より今以所々被召出置候

但飢人へ日別米一合五夕の積り尤女小兒は其内被遣候口等も右に準被遣候右の外増役人被差出飢人救の沙汰被仰付候

一去秋番頭格口羽衛士郡奉行井上半右衛門御國中被差廻救の心遣被仰付候事

一毛利筑後廻郡委細に見分致吟味飢人の緩急に應し米穀札銀等遣之飢人救の沙汰申付且地下の勝手宜敷者共よりも彌以助力相持の心得旁能々申聞せ候様



に被仰付候

一其後御目付兩人被差廻見分被仰付候

一驛々送人馬疲候ては旅人の障に相成候事故馬郎人足へ増飯米馬の飼料等被遣候

一右の通随分無緩せ飢人救の吟味被仰付候へ其元來在々米穀食物乏候故田畠共に所持不仕日履過體の者も別て致難儀御城下其外在々市中杯へ追々罷出者多き故右の所々へ小屋掛被仰付朝夕粥御喰せ尤ひへ疑の者へは着物御着せ寒中大雪の節は人近の御立山にて薪採用寒氣凌く様に被仰付候

一御城下其外在々にて勝手宜敷者よりも食物遣し救候

一去冬は例年よりも寒氣甚敷右體の者共衣食共乏敷候故に付去冬以來病人多きの由に候故在々にて醫師共銀子被遣随分翔廻り情に入療治仕候様に被仰付候  
一飢人内病人早晚よりは多く御座候の内餓死も有之様申候故委細に僉儀被仰付候所に長州阿武郡防州玖珂郡山代〇〇例年より寒手強雪杯も三四尺積し所舊

冬は五尺或は七尺程も積寒氣別て甚敷候故右の所々老人幼少の者百人餘病死有之其外疱瘡時疫等所々に流行候に付八九十人程も果候其余は猶以無紛病死の者候故一向給物絶候て果候者は無之候尤惣ての食物例年よりは乏敷其上當年の儀故雜物をも取合給候故か輕き儀も相滞安く御座候依之所々の醫者中へ申付不怠服藥被仰付候

一御國中飢人正月より二月下旬迄追々相増十七萬七千五百人程有之候御廻し米も段々着船仕其上右の通救惠申付候故最早飢人増候様には無之段々耕作の營をも仕候様に相成候只今の趣を以當麥出來立迄の儀彌無緩せ心遣可仕段御發駕の砌も重疊被仰付候

一御國中死牛馬千疋程内九百程是は虫附の草葉を喰相煩麻疹の煩又は熱炎に打れ死候由

一御國中火用心の儀兼て手堅被仰付候去秋以來別て入御念候へ共世上困窮故悪人の仕業に御座候哉去秋以來御國中にて十三度出火家屋焼失仕候其内百軒以



上三度高森赤間關室積浦

一此度御供の諸士百十人餘去年御先代の御供諸士百六十人餘指引五十人程減少  
此度の諸士並又家頼足輕中間共に總人數六百十人餘一年は千四十人程差引四  
百三十人程減少

一御備の儀長柄二十本弓二十張〇〇籠高等の大備をは一尙被差置御手廻り備の  
内御鍵二本休られ残て御鍵五本御打物御持せ被成御馬御先御跡共に一疋宛御  
牽せ被成其外は御備右に準被減候

一御家老を初一本道具被仰付候

一御拜借金二萬兩の内長府へ四千兩徳山へ三千兩御配當被成候刑部少輔様へは  
主水正様より御配當の内彼御方より御配當被成候

一御國中飢人為御救大坂にて御賣米二萬石御買被成度通十一月大坂御留守居井  
上源三郎より御願せ被成候處に右の辻は不被爲成一萬六千石餘可被差廻候由  
にて二月末迄に九千石程追々長州赤間關へ被差廻候其内長府へ千三百石徳山

へ千石御配分御買せ被成候長府千三百石の内刑部少輔様へ御配分の筈にして  
岩國へも御買せ可被成候由被仰付候所に領内飢人救の沙汰も致候由にて御米  
買得仕間敷候由申來候

八日泰桓公祐巖公泰桓公嫡元君忌日御名代其他齋菜等ニ關シ訓示左ノ如シ

覺

泰桓院様

一御正命日の節

御名代並御一門衆老中衆は勿論の儀御在世の内御側被相勤候御手廻頭衆以上  
尤寺社奉行へ御齋被差出其外御側相勤候面々相詰候は、御齋被差出候事

一盆御施餓鬼は 御名代並御在世の内被相勤候御手廻頭以上寺社奉行へ小食被  
差出其以下は御側相勤候面々相詰は素麩被差出候事

但右の内 御名代寺社奉行は格別其餘は詰居次第被差出候事

一鏡披正月十三日御命日に御側中へ頂戴の事



祐慶院様

一御正命日に御側衆へ御齋並御施餓鬼の節小食素麩御在世の内相勤候面々へは  
被差出候事

右の通向後無相違可被相心得候且又御名代并御一門老中寺社奉行迄は格別其外  
御側相勤候面々は後年闕候者夫迄にて可被差置候以上

子十二月八日

山 縫 殿  
毛 筑 後

九日宍戸大學大組頭ヲ免シ浦主計ニ後任ヲ命ヌ大學ニ召下羽織下付

十二日桂月院於萩死去吉元公御室毛利甲斐守綱元  
臣伴竹齋女衣笠法名桂月院江榜殿菴ニ葬ル

廿一日公及各殿星回ノ吉凶厄年有卦無卦詮考申告スヘキヲ滿願寺圓明院春日宮崎  
社人へ令達アリ

廿七日大城内外諸大名供從ニ關シ大目付回狀左ノ如シ

御城内外召連候供廻の儀享保三戊四月相觸候通彌被相守之惣體の風俗目立不申

様作法宜申付道をも互に片付通之隙に不相成様可被申付候近來は供廻にかさつ  
成も有之候由相聞候付申達候

右の趣可被相觸候

同日長府領赤間關發火町家九十七戸寺二字燒亡ノ報アリ

同日番頭内藤善兵衛公歩ノトキ組頭ノ指揮ニ背キ傳達遅延ノ爲大番下馬立違却セ  
シメタルニ依リ免職逼塞ヲ命ヌ

廿八日手回頭益田圖書公在府中加判役ノ用務ヲ兼シム

同日兒玉傳右衛門目付役ヲ免シ養心夫人裏老ヲ命シ來春飯尾九右衛門ト交代セシ  
ムヘキ命アリ

日不詳御代始一門老中其他ニ臨行ノトキ變待ニ關シ改正訓示左ノ如シ

一御成の儀願出有之追て可被成御下の旨被仰出候上座敷の修覆旁見合の役人被  
差越之見分の上差圖次第たるべく候尤外輪并玄關廻り用意の儀年々御回禮の  
節の趣を以大概強て見苦敷無之分は不迫修覆候御廻禮無之面々も右に準可申



候惣御作事方へ相頼修葺相成入用の價追て上納可被仰付候尤見合の衆差圖の趣を以手前にて相調度所の儀候は、勝手次第の事

附襖並障子の儀見苦敷無之候は、古立候共不及張替候御目通の外は切繕にて差置候程に仕何分見合の衆相談の事

附疊の儀は御座の間一間計輕き表を以可被相調候其外御目通たりとも少々古立候分は不苦尤御次廻の儀は猶以古立候ても不苦候抜替又は縁替にても相濟候勝手次第御貸疊をも可被仰付候條見合の衆申談候事

附御座の間御庭有掛にて相濟候然共目立候程程見苦敷候は差木にても相濟し候可爲心得候事

附右見合の面々は不及申修葺間御作事に掛り候諸士并足輕御中間以下酒飯は勿論一切馳走かましき儀堅停止候尤追て禮物等も同斷の事

一御成壹卷出頭一人番頭一人御配膳一人御茶堂一人御臺所頭一人並同所役人頼入を兼て相定諸事相談可有之候然上は前後一度輕一汁二菜料理肴一輕菓子一

種差出之右の節御目付衆一人同道可被仰付候尤爲見合度々罷越候共一切馳走無用に右の外出頭番頭御傍廻り以下にても追々見廻候共猶以馳走停止候事

一前廉爲見合罷越候衆御勝手の内其外の親類たりとも酒飯の儀御日限は未相知候共御成の儀被仰出候即日より停止に候尤諸事の心遣相頼候者二三人の間亭主より相定御目付衆へ前方相違候上酒飯差出候事

附用事無之者見廻候て詰居申間敷候事

附當日見廻停止の事

附此度の被仰付にては用聞町人共相詰に及間敷候へとも無據者の儀は三四人は各別其外用事無之者共詰居候儀尤酒飯停止候然上は其節呼入候町人名付前廉御目付所へ差出候事

附御成被仰出候以後御目付衆爲見合折々可被差越候事

一御刀掛の儀計は新敷白木にても輕く相調可然候事

一立砂の儀御成門並本門左右計可有留意候事



附水打飾田子等は少々にてても新規調候儀無用に候御作事方より貸渡被仰付候事

附若夜に入候は、挑灯は御成門本門玄關ニツ宛屋敷左右境へ一ツ宛見合を以差出燭臺手燭等新規用意無用に候勝手次第貸渡可被仰付候蠟燭の儀も依頼御臺所より仕出相成候事

一御料理二汁五菜外に御香物御肴一種御吸物一ツ御菓子一通り後の御菓子一通りたるへき事

附後段無用の事

附御三獻塗木具にて相濟候事

附名酒差上候共一種可然候事

附御相伴衆料理の儀は御前同前勿論の事候於御勝手御奏者頭奥番頭御配膳

御目付迄御殘一汁三菜肴吸物一宛菓子一通り差出候事

附御料理物他國へ手遣停止の事

付島臺無用の事

付御熨斗臺御盃臺押白木三方〇相用此外白木具無用尤拜領の御樽折獻上御

肴折等塗物用候事

一御前御上り茶極薄茶并御相伴通茶共に御敷寄屋方より先仕出候様可被仰付候御供中への儀は尤極茶無用候間其心得を以是又御敷寄屋方へ相頼仕出相成候事  
一獻上の御刀代付員數御先代の通被仰付候是又大御納戸にて求之仕立袋上箱等迄も相調候様被仰付候右代銀追て可有上納候若刀并諸道具等の内持合有之候は、兼て閉合可有之事

一嫡子并女儀より御肴木の實類獻上の事

一御膳の上小諸にて相濟儀候間役者二三人の間召寄候事

一御膳御獻立の儀は御臺所頭へ相頼尤御國中と候ても遠方珍物初物等手遣無用候御常住の趣も候間取合旁何分御臺所頭計ひに候若相違の儀於有之は御臺所頭越度可被仰付候事



一御勝手の衆並心遣人共に十人に不可過候事

附其屋敷内住居仕候者手傳等は可爲各別の事

附十五歳以下の者御目通り不能出通ひに雇候分は不苦候事

一白木道具の外御膳御椀具を始御相伴通り家具等被成御貸渡持合有之候ても用候儀不相成候尤御手水道具を始當日御座敷入用の品々右同断の事

附御料理所諸道具鍋桶類是又一切御貸渡相成御臺所より差越候様被仰付候

其内持合の品有之候は、前方付立を以御臺所頭へ申合候事

一御床飾の儀は有合を用新規に相調候儀は可爲無用候自然新敷用意無之て不叶品は前方頼入を以得内意何分差圖次第たるへく候事

一御供衆の儀は御手廻大組は輕き一汁二菜無給以下は一汁一菜の御番食被遣候附御臺所より調出差越候亭主より爲馳走輕一菜酒并菓子木の實水菓子の類

たるへく候事

附亭主馳走の菜酒菓等先御臺所より仕出相成候事

附足輕御中間の者以下へき食香物被遣候亭主より干肴酒二三篇差出是又御

臺所より先仕出相成候事

附御勝手衆其外當日相詰候面々亭主より賄の分菜數を相極是又御臺所へ可

相頼候尤自分より仕出仕度との儀に候は、勝手次第たるへき事

一右の通諸色公儀より先相調候様被仰付候品の儀は代銀員數極候上可有上納候事

一御貸渡の諸道具縱持合有之候ても用候様堅不被仰付候間善惡の不及沙汰御貸渡にて相濟候事

一御歸城以後御跡祝の儀御勝手衆を始當日終日相詰候面々は輕き吸物一取肴にて拜領の御酒差出之其餘は大概尉斗にて可相濟候事

一後朝の振廻停止の事

附頼入の出頭番頭其外へは當分は勿論追て準候ても料理等差出候儀無用候拜領の御酒輕添肴を以一禮を通其以下へは右に准輕き品差越可申候尤音



物の員數名付等委細相關兼て得内意差圖次第たるへき事

右御代々御祝儀御成の趣追々省略被仰付候得共猶又向後時宜に不相叶儀も有之付公私費無之様にとの思召を以改て右の通被仰出候條後年御成願の節は堅無相違如是可被相心得旨候

子十二月

山 縫 殿  
毛 伊 勢  
毛 宇右衛門  
毛 外 配  
毛 筑 後

當年御國回延引 相府年表

半知御馳走外五石旅役渡米 草會年表

毛利十一代史卷之五十九

大田報助編次

觀光公記二

享保十八年癸丑正月朔日公萩城ニ在リ新年賀式ヲ行フ例ノ如シ

七日客秋凶荒餓季充路是日當職毛利筑後ヲシテ諸郡巡撫賑恤ヲ謀ラシム

相府年表曰去年虫枯につき御回米二萬五千石被仰願候處減少被仰付一萬六千石

餘正月より追々被差廻

十三日遊佐新右衛門嫡子四郎左衛門公東光寺參謁ノ途次不敬ノ行爲アリ逼塞ヲ命ス

十五日幕府儉約令發表左ノ如シ 徳川實紀 遠徳映林

去秋領分作毛虫付損亡有之拜借金被仰付候面々者別而致儉約家中領内共に取續申候様盡精力候義可爲專要候依之當丑年より卯年迄三ヶ年之内は獻上等之儀別



紙之通被成御用捨候間被存其趣自分之儀右三ヶ年中は尙更急度儉約可仕候  
右之通被仰付候條可被得其意候已上

正月

參觀之進物

一御太刀馬代

黄金一枚

十萬石以上

西の丸へも同斷

御簾中様へ

白銀三枚

一御太刀馬代

白銀一枚

十萬石以上

西の丸へも同斷

御簾中様へ

白銀一枚

端午重陽歳暮之進物

一箱肴

二種

十萬石以上

西の丸へも同斷

御簾中様へは

一種

一箱肴

一種

十萬石以上

西の丸へも同斷

御簾中様へも同斷

右之外在所之土産等獻上も可爲無用候只今迄間々之獻上仕來候分者土用中寒  
中一度宛魚鳥之内一種宛可差上候

一老中を始其外贈物參勤端午重陽歳暮共無用

右之通當丑年より卯年迄三ヶ年中は可爲減少候以上

正月



年始八朔御太刀目録献上之儀は定式之通可被差上候

一去秋領分作毛虫付損亡に付而拜借被仰付候面々當年參府に而も火の番御門番等の儀も被仰付間敷候召連候家來随分來令減少伺 御機嫌一通に罷越候程之心得に而可有參府候事

廿日蠟殼葺屋舍禁止訓令左ノ如シ

武士屋敷町屋敷蠟殼葺之屋根蠟殼落候ても其分に致置候も有之様子に相聞候左様には有之間敷事候間念を入可被申付候追而役人を廻し改候儀も可有之候右之通可被相達候

正月

廿一日代始ニツキ春日社へ召下染吳服一白無垢一神納セラル從來春日社正五九月召替ニツキ更ニ納付アリ

廿五日城堀浚へヲ命セラル飢民ヲ救フカ爲也此頃米價ノ高直ナルハ米商高間傳兵衛ト云モノ府内ノ米ヲ買置ニヨルトノ流言起リ市中ノ小民二千人相集リテ傳兵衛

カ宅ヲ毀ツ町奉行與力同心ヲ出シテ其張本三人ヲ捕フ米價イヨクアガリテ小民飢ニ迫ルヲ以テ米五萬俵ヲ出シテ府内ノ商工等ヲ賑救ス男ニ二合女ニ一合ヲ給ス此年西南國々ニテ飢死スル者九十六萬九千九百人ト云德川十五代史

二月朔日法林夫人五十ヲ祝シ對面ノ間ニ於テ連歌ノ式ヲ行フ法林夫人へ札守卷敷供物木札連歌懷紙白縮緬三卷鹽鶴一隻進セラル

二日幕府令シテ雜穀ヲ播養セシム德川十五代史

一當年麥出來次第餘計も有之候は、西國四國中國筋へ廻し相拂可申候  
一右之通麥相廻し候に付百姓夫食不足無之ため随分精出し雜穀多く作り候様可致候

三日米穀江戸運送ノ制左ノ如シ大目付同狀

駿河遠江參河尾張美濃伊勢邊御料私領拂米商賣米去年中江戸入差留候ても此節より江戸へ相廻候儀可爲勝手候右之段浦賀奉行へも申渡候間可被得其意候右之趣可被相觸候以上



丑二月

九日益田越中父玄蕃遺物先例ニ依リ懸幅一軸雲龍圖筆ヲ献ス

十八日熊毛郡室積村失火寺一字番所一土藏八民家二百二十六戸ヲ燒亡ス之ヲ幕府ニ報ス

同日毛利筑後嫡子豊三郎毛利宇右衛門嫡子權之助公一字ヲ賜フ兩人太刀馬代箱肴一種ヲ献ス

同日石川源八年四十八幼齡ノ實子アリ家業ノ専門算數習練ニ年序ヲ要スルニ因リ家業中絶ヲ慮リ壯年養子ノ乞願ヲ許シ實子ヲ相續人ト爲スハ各別他家ノ養子ト爲ストキハ遠近付以下へ遣スヘシトナリ

十九日令ス徳川十五代史

一田畑に虫付候所は虫之巢殘腹萱等の根にむかこのことく成もの取付或は右之  
一二寸に右之巢有之段々生し候も有之由に候間可心付儀候左様の所も候は、  
腹萱は燒拂又は土を堀燒捨可申事候

廿六日毛利伊勢嫡子富之允上下契約願ヲ許シ長上下一具ヲ賜フ太刀馬代小脇差一腰備州守助長箱肴一種ヲ献ス富之允へ刀一腰高田代金下付一枚五兩

廿八日當職毛利筑後及養心夫人裏老兒玉傳右衛門ニ黒印令條ヲ授ク例文ヲ以テ略ス

同日船手頭村上一學多年勤仕セシニ病アリ嫡子三郎兵衛へ病中代役ノ乞願ヲ許可セリ

三月朔日氏家市郎兵衛石津平右衛門ヲ永昌院ニ宗廣公實母付屬セラレ當役訓示左ノ如シ

覺

一永昌院殿え各事被付置候條萬端無緩被致心遣尤御付之面々行規作法能遂其節候様に可被申聞候將又年中現入用之儀當年分先被相定候辻を以彌内外相調候様に常々可被致吟味候勿論永昌院殿御不自由無之様に可被相心得候事

一御時節柄旁役人並御中間通の者等多人數被付置候様に不爲被成候條上役下役



へ不及沙汰諸事兼合候而且々御間合候様に可有心遣尤随分御儉約相立無益之御造佐入無之様に女中役人中共に相心得候様に可申聞候事

一諸請拂算用一ヶ月切に引しらへ入用之員數月々各被聞届増減之差引被仕一ヶ年切に勘定相調させ可被申候諸勘文之儀各可爲奥判候事

一諸事請拂之儀時々各被致見聞印形可被仕候若各相障候節は見届之者印判詰に可被申付候事

一男女之差別猥に無之様に常々可被申付候鎖前より外へ暮六時より心得女中出候儀停止候各之外被付置候役人中之儀も夜中鎖前より内參候儀無用候若無據子細於有之は各承届可有差圖候事

附り鎖前之儀各兩人間の封たるへく候尤時々見届候而封仕せ切候節も可被致見聞候事

一火用心之儀日夜不可有緩候夜中火之元見分候儀は女中無油斷見廻候様に可有差圖候事

一女中衣類之儀各別晴かましき儀も無之事候條結構之品被致用捨中居以下の衣類猶以右に可準候又仕之下女等は着物帶等一切木綿帷子地布たるへく候事  
右之趣被存其旨被付置之面々下々至迄堅可被申渡候若不心得之者於有之は可被申出候以上

享保十八丑年三月朔日

山 鏡 殿

氏家市郎兵衛殿

石津平右衛門殿

二日志道丹宮太耶右衛門父宍道玄蕃式部祖父正徳三年罪アリ家祿減少セシニ享保十二年閏正月廿五日志道太郎左衛門へ高八百石宍道四郎右衛門へ高五百石下與ノ命令アリタ  
レトモ儉政中ニツキ物成半額給與セラレタリ其後兩家ヨリ乞願シ殘石四百石志道  
隼人へ同貳百五拾石宍道式部へ本年末ヨリ浮米ヲ以テ給與セラル

三日蝗災ニ因リ令シテ蘭人ノ入府ヲ延期ス實紀

四日公菽城出駕東觀三田尻ヨリ上船播州佐越ニ着船



六日鷹司少將死去養心夫人ニハ甥ノ續ナルモ兼熙公ノ養女ニテ遺跡相續ニ非ルヲ以テ養心夫人忌服ナシ重キ由緒ニツキ萩山口三田尻鳴物停止二日間  
 十四日毎月鷹造日並公在國ノトキ鷹野日限毎月誅罰日等詳細ノ訓示アリ  
 廿七日當職毛利筑後死去嫡子豊三郎へ使ヲシテ弔書及香奠銀三枚下付五月四日豊三郎へ知行高壹萬三千貳石六斗壹升四合ヲ相續セシム  
 同日當職毛利筑後死去ニ因リ加判毛利外記毛利宇右衛門ニ隔月當職暫役ヲ勤ム  
 廿八日堀浚揚土ニ關シ大目付回狀左ノ如シ  
 一橋神田橋外明地 龍閑町邊明地  
 柳原土手下 筋違橋外川端  
 木挽町明地 本所深川川端  
 右之場所に御堀浚揚土積置候間萬石以上以下並寺社町方望之者は自分入用に而引取可申候  
 右之通可被相觸候

但寺社町方は寺社奉行町奉行より相觸候

三月

四月五日公着府櫻田邸ニ入ラル邸與後新築當番僅ニ檢功  
 遣徳談林曰四月五日江戸御着此度虫枯ニ付御供人數減少被仰付御手回頭供無之御一門衆當役も一本道具御備至而御減少出頭は原權右衛門番頭中川與右衛門一人宛被召連執も道中幕も不打候事  
 同日回神甚五郎麻布邸勤務ヲ命シ老臣訓示左ノ如シ

條々

- 一御手前事當御番手麻布御屋敷被差置候條御屋敷ノり旁存寄於有之は可被申出候事
- 一長壽院様御機嫌節々被相伺御客等有之節は御部屋え可被罷出候事
- 一御部屋内外に而自然不慮之儀有之時は會禰吉左衛門令相談何分御爲宜様に可被申談候事



右可申聞旨候條可被存其趣以上

享保十八四月五日

山 縫 殿  
毛 伊 勢

同神甚五郎殿

六日幕使松平伊豆守來リ慰問ス

同日毛利但馬守廣豊着府

十日養子之制訓令左ノ如シ大目付同狀

一他人養子に仕候儀陪臣浪人之子御直參に親類有之候共御直參筋之者に而無之候は、難叶候

右之通可被通置候

丑四月

十三日公登營謁見 此日將軍病ア將軍父子ニ各太刀一腰黄金十兩ヲ君夫人ニ白銀三枚ヲ献セラル老臣毛利伊勢亦拜謁献物皆如例

廿二日毛利大藏ニ當職ヲ命ヌ毛利筑後後任ナリ 要路ハ一覽五月十一日命トアリ此項シルハ

廿五日毛利主水正師就江戸ヲ發ス

廿七日妾ヲ以テ嫡妻ト爲ス禁止訓令左ノ如シ聞老交付

一縁組之願申上之婚儀相關候外は妻に仕儀向後可爲無用旨被仰出候事  
一先年申達候以後届置候而妾を妻に仕候者其通に候以來之儀此度被仰出候通に可相心得候以上

日不詳外國貿易衰退ニ因リ唐蘭互市之法改正訓令左ノ如シ德川十五代史

一長崎表唐阿蘭陀商賣近年不宜出銀大分減少に付去る亥年運上漸三萬兩相納法子年も可相納金三萬兩之外は無之に付地下配分之儀も去る亥年には定式之五分相與へ去子年之儀は虫入に付米高直地下難儀候得共定式之六分通り程相與へ地下人共至而及難儀相續難成趣に相聞へ候依之此度唐阿蘭陀商賣之法を被改地下人共相續仕候ため先年申付候運上金五萬兩之儀當分壹萬五千兩被相減



三萬五千兩上納可仕候地下配分之儀は金四萬兩程可被下置候勿論右亥子兩年之運上金納不足之儀は右之通出銀無之候に付御用拾之事に候條追而納候に不及候右之通此度被仰出候間宜取計可被申付候以上

五月朔日禮式者緒方仲助病死末期ノ乞願ヲ爲スモ普代ニ非サルヲ以テ許可ヲ與フヘキモノニ非ス然ルニ息喜世之助禮式傳授公務ヲ勤メ指南ヲモセシナレハ更ニ米貳拾五俵下付遠近支配ト爲シ明倫館出務ヲ命ス  
二日紋服用御門通券江戸邸内浮浪人ニ關シ訓示左ノ如シ

覺

一御紋之物之儀拜領之品より外着用不相成儀候處何に而も一色致拜領候へは御小袖御羽織御上下其外一切御紋物着用相成事之様に相心得或求又は染調させ候ても致着用候衆も有之様に相聞甚以不心得之儀候彌以拜領之物色之外着用不相成段勿論候尤向後御紋之物染させ候人柄相知次第急度可被及御沙汰候事  
一御用切手に而御門外罷出候面々御屋敷被罷歸候上は物通り又御役柄により當

役或切手差出候所え被相届儀候處近年は無其儀衆も有之様に相聞候向後は御屋敷被罷歸次第前々之通早速届可被仕候事

但足輕以下之儀も其頭又首頭え相届候儀右同前之事

一去秋以來御番手之面々人張減少に付而御國者之奉公人數多御屋敷内に浪人に而罷居候由相聞候依之御末家方御屋敷之奉公前々之通被差免猶來春迄之儀は後例にも不相成儀に付各別之御沙汰ヲ以他屋敷之奉公をも被差免候間御門外罷出奉公仕度と申もの有之候は、可被申出候事以上

五月

九日江戸老臣訓示左ノ如シ

覺

一雨天之節諸士中御式臺前被罷通候は、左右小門より内栗石之上木履被致用捨草履にて可被罷越候事

一足輕以下又家來之中間小者等御式臺前罷通候儀可成程は用捨いたし無據節は



随分謹而可罷通儀勿論候處ぬき入袖其外慮外いましき體或は人に行相立とまり雜談懸咄或され狂ひ等仕もの有之見苦敷體之由相聞候御客御使者等之節は猶以之儀惣而御式臺前不作法有之間敷儀候處甚以不心得之儀候向後右體之もの於有之は急度被逮御沙汰主人も可爲緩候條此段下々能々可被申付候事

丑五月

十九日大目付回狀左ノ如シ

近き頃道具などの類を御旗本の名にて借用似せ手紙を作り所々えかたりに參候由相聞え候右體之儀有之は其所に留置手紙遣候御旗本之方え届之あやしき者に候は、月番之町奉行所へ可差遣候  
右之通可被相觸候以上

五月

二十日米穀大坂運送之制訓令左ノ如シ徳川十五代史

一大坂米相場上り候に付北國筋米之儀先達而相達候通大坂表え彌相廻拂可申候

一北國筋に而麥御買上有之筈に候所此儀相止候間麥も可成程は大坂え是又相廻拂可申之段御料私領町在えも可申候事

二十四日根來主馬領地去年虫枯檢見ノトキ落米ニ關シ家臣ニ不正アリ人民騷擾ヲ起シ直訴ニ及フ審問ノ結果知行下地沒收浮米ヲ以テ給與セラル家臣宇野庄兵衛三好五右衛門流刑ニ處ス

廿八日山縣市左衛門手元役ヲ免シ藏元兩人役長沼九郎右衛門及八木甚兵衛ニ後任ヲ命ス中村孫右衛門ニ藏元兩人役ヲ命ス

日不詳此月米穀買蓄ヲ禁ス徳川實記

一此間米相場上り候に付此以後いよゝ高直に可成と存買置米仕間敷候若相背米屋は勿論誰にても買置米仕候もの有之儀及承候は、早々可申出候詮議之上急度可申付候

六月四日粟屋五郎兵衛町奉行ヲ免シ桂五郎左衛門ニ後任ヲ命ス河瀬五郎右衛門ニ波多野市兵衛代當嶋代官ヲ命ス



八日幸橋夫人有馬左衛門室分娩女子出生

十五日山王社祭ニツキ馬壹匹長柄二十本ヲ出サル

十六日嘉祥式ニヨリ公侍從拜任以後初テ登營大廣間ニ於テ着座ノ次第書アリ畧

廿二日當職毛利大藏ニ黒印令條ヲ授ク例文畧

廿五日閏老公儀人ヲ招キ端午ノ奉書ヲ授ク

端午重陽歳暮從來時服献せられ將軍家より内書賜る例なり去秋虫枯につき三年間献品減少の令あり箱肴提出せられしによりてなり

廿六日高須長左衛門ニ清水勘右衛門代山口代官ヲ竹田庄兵衛ニ岩崎理右衛門代玖珂熊毛代官ヲ命ス

七月朔日京都銀子方足立新右衛門逃亡給米沒收

十日井上半右衛門郡奉行ヲ免ス奉行坐又止

十六日吉川左京祖母妙心院死去

廿三日馳走出米近年ノ如ク課セラル、ニヨリ黒印令條及老臣添書又江戸邸營作概

ネ竣成ニツキ諸臣へ訓令左ノ如シ

數年至極不勝手の上近年不慮の入用差つとひ猶又去秋國中田作虫附損亡皆無同前の儀に而大坂運送米等會而これなく一切要用不相辨別而差閤殊國中夫食の手當も乏き程の儀候處 公儀より拜借金廻米仰付られ有難仕合候右廻米代金其外江戸仕送不足並諸借銀等相縮り近年に至て莫太の處に元來不足の勝手各別償の吟味に絶無據先近年の通馳走を請へく候家中も困窮の儀候得は代始旁救の沙汰にも可及處に其儀なく却而出米申付候段氣毒の事候乍爾大切の時節候條此旨を存且々取續馳走をとくるにおゐては本望たるへし委細年寄共より申聞すへき者也

享保八年七月廿三日 御黒印

老臣添書

覺

御所帶御差閤に付 御先代以來去年迄三ヶ年の間御仕組被仰付之處去々年不慮に 御代替並初御入國等段々御造佐入差湊上方筋出銀無之砌に候へ共肝要の御



用に付御用聞共相働且々御間相候然處去秋御國中田作虫付皆無同前の儀に而大坂御運送米會而無之江戸御仕送りを初一切御要用不相辨其上御國中飢人夥敷當春に至ては御救も届兼可申趣に而旁被差問候處御拜借金御廻米等被仰付漸飢人之御救相成候程の儀候然は御廻米代金上納の儀は日數際限も有之其外兩御屋敷御普請之料江戸御仕送不足並諸御借銀等相續莫太之儀隨分御儉約を被用候而も今年に至ては少々宛も納方不被仰付候ては跡御用不相達付而其沙汰被仰付候處元來御不足之御所帯に付此償之儀各別御吟味も無之候御家來中兼々困窮之儀に候へは去年初御入國之上先可被救遣旨候處虫枯大變に付無其儀却而今年も出米被仰付候段別而御氣毒に被思召候へ共別段御吟味に被絶候間無據先近年之通御馳走可被請候面々も不勝手之事候へ共此御時節候條且々取續於被遂御馳走者可爲御祝着旨候且又御家來中諸借銀納方之仕法別紙之通候此外去戌亥兩年被仰出候通候間旁可被得其意候以上

丑八月

山 縫 殿

毛 伊 勢

毛 宇右衛門

毛 外 記

毛 大 藏

御家來中え御意之旨覺

江戸御屋敷御普請未半途之所も有之候へ共當四月御參府直様且々御移徙相成候御家來中出米も打續困窮候處先御代之内不慮之火災に付猶又遂御馳走度由申出無據被請之候年數も懸り候儀 御氣之毒之事候へ共偏御馳走之餘力を以御普請大概相調別而御滿悅被思召候此段可申聞旨候事

廿七日將軍鷹捉ノ雲雀ヲ賜フ

廿九日唐船漂着ノトキ唐人病死埋葬ニ關シ長崎奉行交付書付左ノ如シ

覺

一唐船御領分え漂着之節右唐人の内病死仕其所に葬度之旨船主願出書付差出右



病死唐人疑敷儀も於無之者其所々々葬追而當御役所え可被仰聞候萬一病死唐人怪敷儀も有之候は、不葬以前被仰聞候儀は各別之儀に候

右漂着船當表え被引送候節船中に而病死唐人有之其所之陸え葬度由申出候は是又疑敷儀も無之候は、他領にても其所の役人中え右警固之仁より被申述其所に葬右之趣唐船被引届候上警固之仁其譯可被申聞候且又右之場所他領に候は、其所之役人中唐船警固之仁より右之譯證文被取之追而當表え可被仰聞候  
右之趣御在所々々兼而被御申達置度存候以上

十九日毛利但馬守へ相馬彈正少彌妹縁職許可アリ

晦日毛利豊三郎右田領地ニ於テ死去去年十三豊三郎母へ使ヲシテ香奠銀三枚下付十

一月十五日毛利主水正弟采女ヲ養子ト爲シ豊三郎遺跡ヲ相續セシム

日不詳此月米運漕之制發令左ノ如シ徳川十五代史

一御當地より上方へ米相廻し候儀町奉行所へ斷申出浦賀へ之證文を以通船可仕  
旨去冬相觸候處向後不及其儀先格之通勝手次第積登せ可申候

九月十日ヨリ十一日ニ至ル泰桓公三年忌端聖寺ニ於テ法會修セラル白銀三拾枚米

貳拾俵納付公兩日參拜萩東光寺ニ於テ十一日ヨリ十三日ニ至ル法會修セラル十三

日夜松本川ニ於テ水燈施餓鬼執行アリ

十八日三戸與左衛門息六右衛門素行不修審問ノ結果流刑ニ處ス

廿七日益田越中采地阿武郡須佐村失火民戸百十六焼亡ス

廿八日裏判役口羽衛士辭職留任郡奉行座ノ用務ヲ兼シム

十月三日家重夫人薨ス年十九證明院ト號ス

四日公登營閑老ニ謁シテ退ク

同日江戸邸前下水道溝渠深浚ニツキ普請奉行ヨリ通達アリ當役ヨリ矢倉方へ訓示  
左ノ如シ

覺

一御屋敷前こみ溜並下水道溝筋御屋敷限に毎月一日宛浚させ候様尤其段御普請  
奉行御兩所間に相届候様との儀に候間毎月十五日を浚日に相定若當日雨天其



外無據相障候は、其翌日必浚取其段公儀所え可相達候事

一洪水大雪等の已後は右一ヶ月一度之外に浚させ候様との儀に候間是又其時分無怠浚せ公儀所へ可相達候左候へは公儀所より普請奉行え御届の沙汰相成候事

右之通後年以無懈怠令沙汰役人交代之節は申傳候様能々可被申聞候以上

享保十八丑十月

山 縫 殿

檜崎久右衛門殿

九日養子制訓令左ノ如シ公儀所同狀

一他人養子仕候儀陪臣浪人之子御直參に親類有之候共願候當人の親類にて無之候は、難叶候

但右は先達て相回し候へとも自今此趣可被相心得候

丑十月

續を以て手前へ養子願之事

一陪臣浪人にて妻の従弟違又徒弟等は養子願取上候事

右之趣頭支配面々え通し可被申置候

丑十月

十一日山田宇兵衛に木梨求馬代大組物頭ヲ命ス

十八日去年八月御能前寺社組内借ニツキ役者木村彌兵衛外十三人粟屋勘兵衛家來手代役信田庄左衛門ト對談ノ趣矛盾ニ關シ役者中組頭へ對シ緩怠不法アリ通塞ヲ命ス關係人高橋半右衛門役所ノ記録ヲ役者へ示シ此件ノ濫觴トナリタルヲ以テ隠居ヲ命ス信田庄左衛門勘兵衛家人ヲ放ツ  
廿五日閣老公儀人ヲ招キ重陽ノ奉書ヲ授ク

從來内書交付ノトキハ公儀人へ巻物下付アリタレ共本年五月ヨリ下付品ナシ

十一月朔日三谷三九郎上田三郎右衛門嫡子長次郎江戸上中邸火災後營作銀且去年虫枯ニツキ多額ノ出財セシニヨリ三十人扶持手代兩人へ米二十俵宛年々下付又三九郎嫡子三谷萬太郎へ紋章麻上一具白銀七枚下付上田長次郎へ嫡子中三十人扶



持手代兩人へ五人扶持宛本年末ヨリ下付セラル

同日幸橋夫人宇田川町移徙

十九月兒玉三郎右衛門元良百五十年忌ニツキ香奠銀二枚下付

廿日將軍鷹捉ノ雁ヲ賜フ

廿五日山田文治右衛門自宅焼失セリ火本番月之内日歸在郷申告ヲ爲シ滯留セシメ

不在中焼亡シタルハ公邊ヲ掠メタル行爲ニヨリ隠居ヲ命ス

廿九日大目付回狀左ノ如シ

居屋敷類焼居城焼失地震等にて大破の節は各別領内損毛にて拜借金上納差延

願之儀は向後可爲無用候事

右之通萬石以上以下共に可被達置候以上

十一月

十二月二日上田三郎左衛門嫡子長次郎紋章小袖下付去年虫枯ニツキ出銀セシニ因  
テナリ

四日所帶方前役松本作左衛門上京中多額ノ公銀私用シ逃亡セシニ京都邸付近彷徨  
中逮捕シ妙性寺ニ於テ切腹ヲ命ス

十三日周防長門之内七月五日六日風雨洪水ノ爲被害景況左ノ如シ

一高五萬六千石餘

一士手井手六萬八千九百九十間餘

一道筋六千六百間餘

一倒木貳百五十本餘

一樋十一ヶ所

一崩家六十三軒

一高札場四ヶ所

一溺死女一人

廿日養子之制大目付回狀左ノ如シ

一幼少實子御奉公難成病氣にて相續不成子細有之前以頭支配へ相達候は、各別



無左候而實子病身之由にて養子願候儀は難成候

右之通可被相觸候

同日大津郡向津具村失火寺一字民戸六十四焼亡牛十頭焼死セリ

廿四日津田忠助ヲ手回組ニ加へ側儒ヲ命ス

廿九日永昌院觀光公實母山口湯田入湯ニツキ訓令左ノ如シ

覺

一今度永昌院殿山口湯田爲入湯御越候御付之面々下々至迄行規作法能萬端相慎別而男女之差別猥之儀無之様可被相慎候事

一御時節柄之儀候へ共御保養一篇に御越御無人之儀候條面々格式之外之儀たりとも被遂其節御間不闕様に可被相心得候事

一火用心之儀別而入念可被申付候事

一御付之面々末々至迄喧嘩口論等不仕諸事穩便之心得肝要に候縱當座難差置儀有之候共御女儀御付之儀候條其場合堪忍追而御歸萩之上其旨趣於被申出は理

非明白に沙汰可被仰付候此段下々へも堅可被申付候事

一去秋虫枯旁地下別而困窮之事候條御逗留中尤御往來共に百姓痛に不相成様相心得尤不自由を堪忍被仕權柄押買等不致様下々えも堅可被申付候事

附り此度御付之面々え御代官より馳走かましき儀一切不仕様被仰付候間可有其心得候事

附於湯田雜用買得仕候節地下之者え無體之儀無之尤買懸等不致様末々又者共へ堅可被申付候萬一右之趣猥之儀有之由相聞候におゐては其者之儀は不違申主人も品に依て急度迷惑可被仰付候尤御往來御道筋におゐても同然に可被相心得候事

右之通被仰付候條下々至迄堅可被申付候若此旨相背不心得於有之は御歸萩之上急度可被速御沙汰候已上

丑十二月廿九日

晦日儉約令發表左ノ如シ御目付同狀



無左候而實子病身之由にて養子願候儀は難成候

右之通可被相觸候

同日大津郡向津具村失火寺一字民戸六十四焼亡牛十頭焼死セリ

廿四日津田忠助ヲ手回組ニ加へ側儒ヲ命ス

廿九日永昌院觀光公山口湯田入湯ニツキ訓令左ノ如シ

覺

一今度永昌院殿山口湯田爲入湯御越候御付之面々下々至迄行規作法能萬端相慎別而男女之差別猥之儀無之様可被相慎候事

一御時節柄之儀候へ共御保養一篇に御越御無人之儀候條面々格式之外之儀たりとも被逐其節御間不闕様に可被相心得候事

一火用心之儀別而入念可被申付候事

一御付之面々末々至迄喧嘩口論等不仕諸事穩便之心得肝要に候縱當座難差置儀有之候共御女儀御付之儀候條其場合堪忍追而御歸萩之上其旨趣於被申出は理

非明白に沙汰可被仰付候此段下々へも堅可被申付候事

一去秋虫枯旁地下別而困窮之事候條御逗留中尤御往來共に百姓痛に不相成様相心得尤不自由を堪忍被仕權柄押買等不致様下々えも堅可被申付候事

附り此度御付之面々え御代官より馳走かましき儀一切不仕様被仰付候間可有其心得候事

附於湯田雜用買得仕候節地下之者え無體之儀無之尤買懸等不致様末々又者共へ堅可被申付候萬一右之趣猥之儀有之由相聞候におゐては其者之儀は不逮申主人も品に依て急度迷惑可被仰付候尤御往來御道筋におゐても同然に可被相心得候事

右之通被仰付候條下々至迄堅可被申付候若此旨相背不心得於有之は御歸萩之上急度可被速御沙汰候已上

丑十二月廿九日

晦日儉約令發表左ノ如シ御目付同狀



一 去る亥年相違候當丑年迄三ヶ年儉約之儀來寅年よりは可爲前々之通候併衣服諸道具有合を用ひ並家來之衣服猶以見苦候共被用候程は用ひ可申との儀右之類只今迄之通に可被心得候且又萬石以下之面々平日白小袖之儀必着用にも不及候間勝手次第に可被致候其餘者三年の間之如くに仕度事は其通にいたし左様に難成品は是又勝手次第たるへく候以上

是日歳晚諸邑ノ困究ニヨリ祿高百石ニ正銀二百目ヲ度トシ救恤セラレ毛利氏譜  
享保十九年甲寅正月朔日公江戸邸ニ在リ

二日公登營謁見献物如例

十五日公登營ノトキ供從公儀人井原藤兵衛徒土目付ヨリ質問アリ問答左ノ如シ

一 國主の家老三千石以上石萬石くらひにても押足輕壹人連れ候や又貳人連れ候や  
此段三千石より四千石迄の張の者は押足輕壹人五千石以上之張の者は貳人

連れ申候

一 袋入立傘爲持候哉

此段三千石以上萬石之張にても袋入持せ不申候

右答書提出せし理由は享保三戌戌四月戸田山城守交付書付の中に五千石以上は押足輕貳人三千石より四千石迄押足輕一人三千石以下は押足輕無用輕輩長柄傘無用陪臣の輩召列候供のもの右人數に準し候様とあり如上の書付に符合せしとの詮考に因てなり

十九日扶持方成中跡職ニ關シ訓示左ノ如シ

覺

一 御扶持方成衆跡式借銀返濟之上被仰出儀候へ共半知之御馳走被召上候内は借銀納入前積よりも年數相延おのつから跡式延引相成候間御了簡の筋を以半知之内は跡式之儀可被仰出候尤半知之御馳走不被召上節は前々之通借銀返濟之上跡式可被仰出候事

一無據儀有之節は夜分堀内被罷出候様にとの儀前廉御沙汰相成候處夜分計にて



は差問之趣も有之の由相聞候付御了簡を以七ツ時より堀内へ被罷出候儀被差  
免候事

寅正月十九日

二月三日豊浦郡赤間關伊崎町失火全燒民家百十一戸燒死男一人

三月十六日雲谷等鶴病アリ等鶴ノ請願ニ基キ隱居ヲ許シ持掛高三百石外銀壹貫貳  
百目此内高貳百五拾石ヲ原治兵衛ニ分知大組ニ加ヘ平士ニ高貳拾石銀六百目ヲ雲  
谷等澄ニ分知雲谷ノ本家相續高五石三斗銀六百目弟子栗栖六兵衛ニ分知六兵衛持  
掛扶持方貳人切錢貳百目外ニ高拾貳石五斗ニ加ヘ惣高ニ直シ七拾五石トナシ庵號  
雲谷ニ改メ書業ニ奉仕セシメ栗栖六兵衛家斷絶ニツキ高貳拾四石七斗ヲ以テ弟子  
家一戸立テシム

廿日毛利采女ヨリ祖父筑後遺物聯幅探幽唐金釣香爐又豊三郎遺物トシテ献ス

廿三日丹羽正伯貞機ニ庶物類纂ノ編輯ヲ命スルヲ以テ國々ノ産物形狀名號ヲ問フ  
アラハ之ニ答フベキ由諸國ニ命ス徳川十五代史

四月朔日手回頭益田圖書ヲ若老ニ任シ江戸留守居ヲ命ス廿一日黒印令條ヲ授ク例  
文略ス

益田圖書在江戸人張若黨四五人馬口付貳人沓籠持壹人鍵持壹人傘持壹人草履取  
壹人對挾箱持貳人合羽籠持貳人手明壹人押壹人已上上下拾八人江戸アリキ人數  
外ニ侍中間拾三人合三拾壹人

六日毛利主水正着府

十六日公歸國暇ヲ賜フ賜物如例

同日日下窪夫人毛利主室袖留ヲ祝シ拾一重干鯛一箱夫人へ干鯛一箱主水正へ進セラル

十八日公登營拜謝謁見馬ヲ賜フ如例

同日國司衛士ニ手同手回頭役ヲ命シ兒玉五左衛門同役タラシム

廿三日公江戸發駕中國路陸行毛利伊勢ヲ國社及宮崎八幡宮宮島ノ祖廣島ニ又使者二人ヲ吉田

五月朔日厚狹郡舟木才判住所立野孫左衛門隣村百姓四郎右衛門ヲ殺害ニヨリ逼塞  
ヲ命ス過失書左ノ如シ



立野孫左衛門

右孫左衛門在所隣村にて百姓四郎右衛門を令殺害其仕方におゐては健成事候へ共最初之趣廉々不心得之儀有之に付逼塞被仰付置凡下の者と候ても無筋討果候ては御仕置の趣も有之事候へ共四郎右衛門慮外之體無紛相聞候付 御歸城前旁以御了簡孫左衛門逼塞被差免候事

三日毛利大藏元祖元秋百五拾年忌ニツキ香奠銀三枚下付

五日公歸國途次京都ニ至リ一條鷹司養心夫人ヲ訪フ所司代牧野河内守在府ニツキ

京都邸留守居平川長左衛門ヲシテ町奉行へ報告セシム

廿二日公歸城將軍ヨリ下賜ノ縮緬一卷白銀三枚大納言ヨリ下賜ノ紗綾一卷永昌院へ配賦セラル

同日歸國禮使トシテ柳澤初負ヲ出府セシム初負へ紋章帷子下付

廿三日當役山内縫殿勤續ノ命アリ

廿七日公痘ヲ患ラル六月十一日平快

遣徳談林曰廿八日御發熱御痘瘡相成中村康軒小倉梅軒吉原市兵衛被召出御様體伺被仰付御藥者尾崎宗達指上候御目通罷出候者へは何れも紅の羽織着用被仰付候御三番湯迄は何も定詰不寢被仰付御痘後御祝之御料理御一門老中役人通御小性中へも被遣猶夫々へ頂戴物も被仰付候事

日不詳村山若狹伊勢香澤請願アリ先代交付ノ例ニヨリ狩衣壹領差貫一下リ烏帽子壹頭末廣一本下付又享保廿年二月廿八日紋章小袖下付蓋シ乞願ニ因テ也

六月廿七日公歩行初トシテ宮崎社ニ詣ス

七月六日永昌院吉元公側室様唱ニ改メラル

七日波多野市兵衛當島代官在役中米銀支出方ニ關シ違法アリ逼塞ノ後隱居ヲ命ヌ當時下代佐伯新右衛門職務ヲ免ヌ

同日公痘瘡快癒ニヨリ赦罪ヲ行ヒ歸島及出獄放免拾人ナリ

十八日當職毛利大藏前當職堅田安房ヲ召シ料理ヲ賜フ安房ニ刀一腰保昌五郎折紙下付

廿一日赤川勘解由ニ笹川治右衛門代寺社奉行ヲ命ヌ小川貞右衛門老年迄多年勤務



ニヨリ時服一重下付赤川又兵衛數年ノ勤勞ニヨリ銀二十枚下付井上四郎右衛門ニ  
弘中長左衛門代上關代官ヲ木梨彌右衛門ニ小野貞右衛門代熊毛代官ヲ命ス周田八  
郎右衛門所帶方ヲ免ス

廿三日坂九郎左衛門ニ井上七右衛門代山代代官ヲ木原惣左衛門ヲ大組ニ加ヘ長沼  
作左衛門代德地代官ヲ命ス粟屋與一右衛門直目付ヲ免ス

廿五日中井貞右衛門ニ林三郎右衛門代目付役ヲ命ス三郎右衛門ニ時服一重下付  
八月三日當役山内縫殿辭職ヲ許シ桂主殿ニ後任ヲ命ス再役ナリ

五日津田市右衛門手元役ヲ免シ山縣市左衛門ニ後任ヲ命ス

十一日馳走出米少シク返付ニツキ黒印令條老臣添書諸臣ヘ訓令馳走段分左ノ如シ

近年不慮の造佐入段々有之無據去年も重き出米申付の處に逼迫の内且々取續遂  
馳走を令祝着候當年は何とぞ各別惠の遂吟味候やうに兼而申付といへとも上納  
金銀を始彼是の借銀差湊思慮に不任漸去年の出米高纒減猶又今來年馳走を請る  
の外これなく尤當年の儀は暮に至り少々救の沙汰に及候間彌令儉約於遂奉公は

本望たるへし委細年寄共より可申聞者也

享保十九年八月十一日 御黒印

覺

一近年不被思召寄御造佐入段々有之去年も無據御馳走被召上候付而當年之儀は  
何とぞ御救之筋遂吟味候様兼而被仰付當役中種々申談候得共當正月中上納之  
御廻米代金も未相滯其上當暮より五ヶ年之間御拜借金上納を始段々御借銀莫  
太に相成上方筋出銀も無之江戸御仕送旁別而被差問候御家來中も御馳走打續  
困窮之事候へとも各別御吟味無之付而漸去年之出米少々被減別紙段分之通今  
來年之間御馳走可被請旨候事

一病者幼少並不勝手に付當分御扶持方被下置候面々御馳走之儀は別紙之通増候  
而被召上候且又諸借銀納方仕法等之儀は追而可被仰出候事

一今來年之間は先達而被仰出候通彌愁訴斷等一切被差留候事  
右御家來中能々被存此趣大小身共可有其心得候以上



寅八月

桂主殿

毛伊勢

毛宇右衛門

毛外記

毛大藏

御家來中御惠之儀去年御入國之上被仰聞候趣も有之候得共御國中不慮之虫枯大變に付不被及其沙汰愈困窮之段別而御苦勞被思召候依之此時節候へ共種々吟味被仰付爲御救當年之儀は暮に至高百石に付正銀貳百目宛可被下置との御事候條面々一分々々之吟味を以御仕組中且々取續可被遂御奉公候事

御馳走米段分覺

一高百石以上

但高百石に付現米拾五石掛り

一高七十石以上

但高百石に付現米拾三石三斗掛

一高五十石以上

但高百石に付現米拾石貳斗掛

一高四十石以上

但高百石に付現米七石六斗掛

一高三十九石九斗九升以下

但高百石に付現米五石六斗掛

一足輕以下

但現米十石に付三斗壹升掛

一病者幼少之儀は此度之御馳走惣之當り五朱増被仰付候事

一御扶持方成之儀は御了簡を以此度之御馳走惣之當り貳朱増被仰付候事

一寺社家御馳走之儀惣之當り之内三步貳被召上残り三步一被差除候事

一御切錢持合之分は如古法五石和市にして被召上候事



附永々銀持合之分は下之勝手次第米銀之間を以可被召上候銀子を以差上候

時は貳石和市にして被召上候事

一被石えは御馳走被差免候事

一貳人扶持計之ものは御馳走被差免候然共壹人扶持にても切方持合貳人扶持より上に相候へは御馳走被召上候事

一御雇衆隠居料女中之恩扶持壹歩引にして被遣候事

一旅役出銀之儀重き出米就被仰付候 公銀を以勘渡被仰付候事

右寅卯兩年御家來中より御馳走高百石に付現米拾五石懸り前書之段分を以被召上候尤就御類焼出米三石懸り之儀は近年之通相違無之候以上

寅の八月十一日

同日公儀人井原藤兵衛ニ直目付ヲ命ヌ粟屋與一右衛門後任ナリ

十六日當役桂主殿前當役山内縫殿ニ料理ヲ賜フ縫殿へ刀一腰米國後代下付

廿二日吉原傳左衛門先祖拜受ノ開作地再檢石盛ノ乞願ヲ爲シ往々不審ノ廉アリ審

問ノ結果野山屋敷ニ入牢中病死セリ十一月廿一日嫡子吉原四郎右衛門ヲ流刑ニ處

ス傳左衛門持掛高百二十四石八斗八升八合沒收

廿三日加判役毛利外記ノ辭職ヲ許シ宍戸美濃ニ後任ヲ命ヌ外記へ代金七枚ノ腰刀下付

廿八日諸大名ヲシテ代官ノ請ニ應シ兵ヲ出サシム令文左ノ如シ

一領分近邊御料有之面々於御代官所若惡黨者等有之人數も入可申節當地え申越及延引候時分少々之儀は直御代官より可申達候間相應に人數可被差越候爲心得申達置候

右之趣萬石以上之面々え可被相達候以上

八月

一於御代官所若惡黨者等有之人數も入可申刻江戸え相窺彼是可及遅々節少々之儀は直近邊之大名え申達呼寄可申候相應に人數可差出旨萬石以上之領主えも申達置候間可被得其意候

右之趣御代官共え申聞可被置候



八月

九月六日去々年田作虫枯被害ニツキ人民ニ多數ノ飢餓アリ恤救米ヲ出サレタル鴻恩ニ感シ人民ヨリ馳走ヲ遂ケタク上申ニヨリ代官ヨリ手元役へ申達手元役ヨリ右ニ對スル訓示左ノ如シ

覺

去々年田作虫枯損亡付て地下中痛強ク數多之飢人等御座候處過分之御救被仰付奉蒙御高恩候處去今年地下風儀宜敷偏去々年御救被仰付被遣候故と有難奉存候然は上御不如意之御時節殊御廻米御返納被差間候様に奉承知候間纔宛成共奉遂御馳走度奉願候由地下中申出候條宜敷被仰上可被下候以上

九月六日

御代官中

長沼九郎右衛門様

八木甚兵衛様

年來御所帶御逼迫候處近年不思召寄段々臨時之御入用差湊米紙下直旁に付別而

御差詰之事候其上御家來中も數年逼迫候處近年重き御馳走被仰付彌増及困窮候得共無據今來年引讀出米被仰付然共猶大段之御不足有之被絶御繰卷此上は地下より出米被仰付之外無之候へ共地方之儀は容易に御馳走等被仰懸候様には難被爲成御事に付段々御吟味之内去々年田作虫枯損亡付而飢人共え過分之御救被仰付段々奉蒙御高恩候處去今年は地下風儀も宜敷御座候上御不如意之御時節殊御廻米御返納も被差間之通傳承纔宛成とも御馳走をも奉遂御馳走度由此度地下より願出委細聞届神妙之至候右之通莫太之御不足各別御方便無之候付此後萩より於于時地下え被差出候諸役人等可相成程は被減之其外地下足役等をも此上減候様に可被仰付候條裁判々々之趣を以下より整出候品々をも随分遂吟味諸事令省畧小貫等をも致減少彼是之餘慶取合御藏入給領共石別三升宛之出米を以遂御馳走候様に可被申渡候以上

寅の九月

十日江戸加判は御留守居三人順番ヲ以テ一人宛先公以來江戸供從國元ニ於テモ三



人順番ニ勤務アリシニ向後公在國中月番兩人順番ニ勤メ來番手供從ノ輩ハ前年ヨ  
リ月番等ヲ除キ江戸加判ノミ勤務スヘキ命アリ

十一日吉川左京中條大和守女ト婚姻成ル

十二日神村五郎左衛門ニ國司助右衛門代表番頭ヲ井上半右衛門ニ公儀人ヲ命ス

十七日捨子之制發令左ノ如シ大目付同狀

一捨子を貰ひ又外之ものへ遣候儀彌停止候併無據子細も有之外之者へ遣候は

十歳迄之内は先達て貰候奉行所又は貰候其屋敷え相届候上差圖次第可遣候

九月

右之通町奉行より相觸候間萬石以上以下共に可被通置候

十月六日津田市右衛門元前手時服一銀子二十枚下付宇田川夫人有馬左衛門佐裏老八

谷五兵衛辭職ヲ許シ召下上下一具銀十枚下付梨羽頼母ニ大組頭兒玉三郎右衛門ニ

柳澤頼負組ヲ保管セシム頼負に紋章羽織一下付大照院隠居珠長老に時服一銀十枚

下付數十年寺役精勵ニ依テナリ

同日水戸卿ニ命アリ禮儀類典ヲ獻ス備用十五代史

十二日公山口水上山法會ニツキ佛詣廿一日歸城水上山眞光院隠居隨享院ニ時服一

銀十枚下付多年寺役勤勞ノ爲ナリ

廿五日長井文左衛門ニ矢倉頭人ヲ命ス

十一月九日梨羽宮内泰巖公以來累代近侍以後勤績六十七年闕如ナシ今回隠居ノ乞

願ヲ許シ隠居料米三拾俵下付

十二日手回物頭祖式左中ニ記録所役ヲ公儀人末近九左衛門ニ奥番頭ヲ祖式一格ニ

糸賀八郎左衛門代表番頭ヲ秋里式部ニ財滿新右衛門代表番頭ヲ林木工ニ粟屋新左

衛門代表番頭ヲ目付役兼重五郎兵衛ニ公儀人ヲ使番三浦七兵衛ニ目付役ヲ物頭小

笠原仁左衛門ニ目付役ヲ小川源右衛門ニ祖式左中代手回弓頭ヲ表番頭糸賀八郎右

衛門ニ小川源右衛門代手回鐵砲頭ヲ赤川半兵衛ニ小笠原仁左衛門代大組物頭ヲ命

ス末國與左衛門ニ宇田川夫人裏老ヲ命シ有福五郎兵衛ト交代セシム同神舍人ニ日

下窪夫人裏老ヲ命シ内藤新右衛門ト交代セシム



十五日春來屢風雨洪水九月二日三日尤甚シ秋收凶歉田ノ壞者高五萬九千石民戸ノ流類スルモノ九十九橋ノ流倒スルモノ二十四之ヲ幕府ニ上陳セシム  
同日西御殿都合人氏家一郎兵衛辭職ヲ許シ銀二十枚下付日下窪夫人出生ノトキヨ  
リ勤務數十年ノ苦勞ニ依テナリ

廿六日乃美藏人齡七十歳ニ達ス絹布ノ下着免許ニツキ羽二重二匹下付

廿八日中川與右衛門與番頭ヲ免ヌ

十二月三日大頭役福原豊後辭職ヲ許シ粟屋九郎右衛門ニ後任ヲ命ヌ

四日城番番頭ニ關シ訓示左ノ如シ

八組御城番之節番頭衆毎々病氣就有之近年は一組五人宛兼て假番頭被定置本番頭病氣差合等之節は順々其沙汰相成候處假番頭五人も不殘不快出勤不相成俄に又仮番頭の沙汰相成儀度々有之候病氣不任心底儀にて可有之候へ共大概之儀を  
は差押先本番頭可有出勤儀勿論候差押候ても出勤不相成時は假番頭之内病氣輕重も可有之候間且々出勤相成程之衆は差押可有出勤候少々之儀をも不快と號不

被罷出衆於有之は急度可被逮御沙汰候然上は向後本番頭にてても假番頭にてても不

快出勤不相成節急に病氣見分被仰付儀も可有之との御事

組入番入等之振廻並御番所え辨當等を取寄相番中え差出候類之儀堅被差留候段  
は去酉の年も被仰出候處頃日猥かはしく罷成候由相聞候御時節柄旁不心得之儀  
候向後若右體之儀偏聞におひては急度可被及御沙汰との儀候右之趣御目付衆え  
も被仰付置候御事

五日飯尾九右衛門七十歳ニ至ル留職ノ勞アリ特旨ヲ以テ孫養子ノ乞願ヲ允許ス右九

衛門七十六歳續子久右衛門四十三歳孫養子入江四郎兵衛二男庄九郎十九歳

六日和智六郎兵衛公歩行ノトキ拳ニテ鷹合セヲ祝シ金貳百匹下付

十八日當職桂主殿防長兩國藏入所務方享保三年六月ヨリ同五年七月ニ至ル算用一紙公聽ニ達ス因テ料理ヲ賜ヒ代金壹枚五兩ノ兼吉脇差下付裏判役口羽衛士紋付上下一具下付佐藤七郎左衛門伊藤半左衛門栗屋八左衛門坪井惣兵衛銀壹枚宛下付桂主殿當職役中大算用結了ニ依テナリ



算用一紙覺

一惣高九拾萬八千拾五石貳斗八升三合

此内八拾五石貳斗三升貳合 新開

右之物成

米三拾四萬九千三百九拾八石貳斗壹升八合

銀壹萬六千百貳拾貫六百貳拾三匁

内拂

米貳拾貳萬八千八拾四石六斗七升七分

銀壹萬九百三拾九貫六百四拾九匁六分

殘

米拾貳萬千三百拾三石五斗四升壹合

銀五千百八拾貫九百七拾三匁四分

右御貸付米銀共に益田織部え引渡

廿一日役者本人嫡子家業修練ノ爲メ出府慰勞金ニ關シ訓示左ノ如シ

覺

役者本人嫡子共に家業爲稽古江戸罷越候節御心付之御仕法有之儀候得共年限無之候故一往罷登候者追御暇度々申出永々滯留被付御氣候付御心付之明無之志有之者も罷登候儀不相成様に有之候依之向後は追々罷登爲稽古仕候九年三ヶ年之間御心附被遣右年限過滯留仕度と申者之儀は一向御心付不被遣可爲自堪忍候事附り只今居掛り候者之儀も右之通候事

廿二日一門六家ニ限リ江戸加判勤務ハ古例ニツキ口上書ヲ以テ上申右ニ對シ御意書左ノ如シ

一門提出覺書

一江戸御參府之節爲大家老各六人に相限古來より相勤候儀は大概近年以其分に被仰付儀候故 御代々御供仕來候其内 壽徳院様御代末之御番手御儉約と候而國司主税兒玉三郎右衛門御供被仰付候然處 青雲院様御代始完戸備前毛利



市正え改而被成 御意候は自今之儀は大家老之儀六人之内え限江戸可被召連候殊に 御一行所之判形をも被仰付御事旁先例之通一人宛御供可被仰付候尤其節永田馬場御前様御意之旨も有之宍戸備前毛利市正追而御供仕候一泰桓院様御代に被爲成右之趣於江戸完戸丹波毛利山城毛利大藏より古格之通御直に逮 御聞愈以來も 御代々之通大家老座之儀は各六人に限御供可被仰付段 御直に被成 御意古格之分に一人宛御供仕猶又近年御國方より兼帶順番に御供被仰付來候段被成 御意候御當代之儀も御先代に被仰付候通三人え彌順番に御供可被仰付旨被成 御意候御先々代以來御代始先例之趣申上候被遊御存知たる儀も可被成御座候へ共未當御代不申上儀に御座候尤自今御相違之儀は御座有間敷と奉存候於御國は益田福原兩家え各一同御留守居役之儀は被仰付候て可有御座候へ共江戸大家老座え被相交被召連候ては古例も相違に罷成おのつから御断をも申上候様に可有御座候然時は却而御持方も如何敷存候定に御内々を以御自分様迄得御意置候間右之通 御代々之趣無御相違様に被聞召置候様にと奉存候間御序を以被仰上可被下候以上

御意覺書

此間被成御渡候御覺書逮 御聞候處に前々益田福原兩家被召仕候次第委細被成御尋候故 泰巖院様御代始益田越中御一門順番に加判被仰付 御同代御初入國御禮爲使者福原左近被差登候段且 青雲院様 泰桓院様御代始之様子御控に不相見趣旁申上候處被成 御意候は御一門六家之内江戸加判相應之人柄有之節は左様も可有之候へ共時に依病者幼少も可有之儀其節は差間にも可相成事候 泰巖院様御代始御沙汰之趣も有之 青雲院様御代初宍戸備前毛利市正え 御意之趣並 泰桓院様御代始達 御聞 御意之趣孰も控に不相知前々之趣も有之候條旁向後御一門之内江戸加判相應之人柄無之節は益田福原兩家之内人柄次第被召仕候様にも可有之候此段可相違置旨御座候事

廿六日青山權少輔父中務代ヨリ數年抱瘡祈禱命セラレ至癒良好ナルニ因リ上下一具下付



廿八日一門老中下屋敷除石及扶持方成ノ聲跡職ニ關シ訓示左ノ如シ

覺

御一門老中下屋敷御除石之儀只今迄其際限無之申候得共元來餘分之石高御除地に被仰付可被下儀にて無之候間自今以後御一門老中より下屋敷御除地之願有之候は、高五石迄は御除地に被仰付其餘之石高被持合或は屋敷込候歟或其屋敷之傍爾にて一同に御除地に被仕度と被申候衆之儀は知行所にて替地被差出候歟又は懸り地にして年貢被相納候様に成共可被仰付候間向後右之趣を以可及沙汰旨被仰出候事

但只今迄持合之下屋敷之儀は假令石高不足候ても追而御除地被増下候様には不被仰付候事

附り御一門老中之外之衆え若向後以御心入下屋敷拜領被仰付候は、石高御除之儀は右に準し相應之吟味可有之候事

寅十二月廿八日

覺

一御扶持方成衆跡式之儀半知之御馳走被召上候内は可被仰出由尤半知之御馳走不被召上候節は前々之通借銀返濟之上跡式可被仰出候段最前沙汰相成候然處重き御馳走被召上候内之儀故猶又御了簡を以今來年之間は跡式被仰出且身分之縁職並養子願をも被差免候事

但嫡子並娘之縁組初婚は不被差免候事

寅十二月廿八日

草舎年表

今來年十五石之御馳走

當年松本橋架替

毛利氏譜録

是歲十二月諸臣ノ貧困ヲ賑救セラル、去年ノ如シ



毛利十一代史卷之六十

大田報助編次

觀光公記三

享保二十年乙卯正月公萩城ニ在リ

十一日公今春東觀ノ時京都ニ抵リ一泊養心夫人へ面謁一條殿鷹司殿候間ノ伺書幕府認可アリ伺書ニ關係セシ由緒書寫左ノ如シ

由緒書寫

一條大政所御方

松平新太郎光政息女松平長門守吉元叔母當大膳大夫大叔母

一條右大臣殿

松平大膳大夫從弟續

鷹司政所御方



松平故長門守秀就息女

鷹司敬君殿

松平大膳大夫從弟續

養心院

鷹司故前關白兼熙殿養女實兼熙殿御弟有隣軒殿息女松平故大膳大夫吉廣内

室當大膳大夫祖母

一條様御續之次第諸大夫より差越候寫

松平大膳大夫様

右は一條大政所御方御甥孫大政所御方は右大臣殿御祖母に而御座候

大政所御方は備前故少將光政朝臣御息女に而御座候 大猷院様御養女に而御座候

鷹司様御續之次第諸大夫より差越候寫

松平大膳大夫様

右は養心院之御方御孫にて御座候養心院御方は 鷹司故前關白兼熙公御養女實

は 有隣軒殿御息女に而當 鷹司殿御從弟に而御座候 故前關白兼熙公御母は

故長門守少將秀就朝臣御息女にて御座候 有隣軒殿は兼熙公御弟にて御座候

日不詳永昌院夫人付おみを御局當役桂主殿へ提出神文左ノ如シ侍女十一人曰リ

神文前書之事

一私事御奉公随分ゆるかせなく御ため宜やうに心遣いたすへき事

附御朝夕其外あかりもの随分念を入可申候尤惣の女中へもかたく申聞すへき

のむねかしこまり申候事

一惣して人の上の善惡並人に頼まれ候とてかりそめに人の身體 永昌院様え不

申上尤御こと葉を副られ候やうなる事もかろく敷是なきやうに相心得申へ

きのとをりかしこまり申候事

一御勝手御造佐入の事御叶ひなされさる御用はかくへつに候へとも御時節と申

其心得いたし候やうにとの御事かしこまり申候事

附諸事ついえの事これなきやうに下々へもよりく申付候やうにとの御事



畏り申候事

一今度惣の女中へも誓紙仰付られ候へとも常々誓紙のむねを守り萬事を慎み惣して差別みたりにはなく行規作法よく相嗜候やうに兼々申聞すへきの通りかしこまり申候事

右於偽申上者

神文常之通

享保廿卯正月

かつら

主殿との

おみを

二月十一日將軍鷹捉ノ鶴ヲ賜フ郵送萩城ニ至ル廿三日也是ヨリ後公歸國ノ日歸サ

廿五日兒玉五郎兵衛ニ天野舍人替表番頭ヲ目付役小笠原仁左衛門ニ赤間關在番兼務ヲ勝田新右衛門ニ檜崎與兵衛替大組鐵炮頭ヲ雜賀織江替大組鐵炮頭ヲ命ス織江

及與兵衛ニ紋章羽織一宛金拾兩宛下付

廿六日長壽夫人六十ヲ賀シ連歌百題舉行祈禱物連歌讀紙山社鎮符縮緬三卷鹽鶴一雙進セラル

三月六日洞春寺へ舊例ニ因リ萩城二郭乘輿ヲ許ス

十五日兵書多田藤左衛門ニ銀貳枚下付去々年來明倫館皆勤子弟指南ノ勞ニ依テナ

リ

廿一日櫻町天皇即位御年十六帝諱ハ昭仁中御門天皇ノ第一子享保十三年ニ皇太子トナリ今日受禪先帝ヲ尊シテ太上天皇ト號シ奉ル

廿四日萩生惣七郎觀改正服忌令ヲ上ル編川實紀

廿六日國重又右衛門十七年間物頭役勤務ニツキ紋章羽織一下付西御殿付石津平右衛門享保四年西御殿へ付セラレ公及日下窪夫人幼年ヨリ勤仕數年ノ勞ニ因リ銀二十枚下付

同日兒玉與右衛門ニ伊藤喜右衛門替大組弓頭ヲ山田彌兵衛ニ熊野五郎兵衛替大組



鐵炮頭ヲ命ス林三郎右衛門隱居乞願ヲ許シ數十年職務勵精ニ因リ褒詞アリ  
晦日役者及鑄師家業數十年勤務ニ因リ一代刀ヲ許ス左ノ如シ

鼓打 岩田九郎四郎 狂言師 山本三郎右衛門

大鼓 内藤九郎兵衛 鑄師 河治權之允

閏三月朔日柳澤鞆負七代祖柳澤監物元政防州吉敷郡山口字野令豊國山俊龍寺建立  
ニ係ル享保十三年九月十五日提出由緒ニ對シ當役中之ヲ承認セリ

三日公萩城發駕東觀ノ途ニ即ク

十八日公京都ニ至リ諸司代土岐丹後守ヲ訪ハル

四月四日公着府諸事如例

同日口羽衛士裏判役ヲ免ス

廿二日毛利主水正師就病危篤實子多賀之允虛弱ナルニ依テ弟岩之允ヲ以テ家督ヲ

繼シメンコトヲ願フ同夜師就日下窪邸ニ卒ス年三十聖諦院ト諡ス

五月二日南都東大寺領地ニ關シ代替判物交付之請願ヲ許シ證文授與左ノ如シ

南都東大寺寄附之地於周防國佐波郡國衛土井八町減少之事領内之寺領悉於返遣  
之者秀就如先判可令寄附者也聊不可有相違之狀如件

享保二十年五月二日

松平大膳大夫宗廣御判

東大寺御沙汰所

五日公着府ニ因リ江戸留守居若老益田圖書ニ歸國ヲ命ス召下羽織一下付

十一日今年東照公海内一統ニ歸スルノ年ニ支干相値フヲ以テ慶賀アリ以後例トシ

川之ヲ舉行ス  
十五代史

十五日公儀人上山庄左衛門熱練ノ同僚免セラレ新任指導ノ勤勞ニ因リ紋章上下一  
具下付

十八日閑老酒井讚岐守死去讚岐守ハ長壽夫人ノ甥ニシテ忌三日服七日受ラル江戸

邸萩山口三田尻鳴物停止三日間

廿三日井伊掃部頭直惟致仕嫡子因幡守直定家督ヲ掃部頭ハ左兵衛督因祝シ使ヲシ

テ掃部頭へ太刀金馬代干綱壹箱樽代金千匹左兵衛督へ太刀金馬代干綱一箱ヲ贈ラル



廿六日山内新右衛門ニ裏判役ヲ命ス口羽衛士後任也

同日藏元檢使暫役中村新兵衛銀子方藤井與右衛門支拂銀ノトキ輕卒ノ行爲アリ違慮ノ後隱居ヲ命ス與右衛門ニ遠慮ヲ命ス

日不詳此月令ス德川十五代史

一今度浪人並河五市郎編集致板行候五畿内志之内に權現様御名出候所押立候儀は書入させ候就夫只今迄諸書物に權現様御名出候儀相除候得共向後急度致したる諸書物之内押立候儀は御名書入不苦候御身之上之儀且御物語等之類は可相除候

一御代々様御名諸書物に出候儀も右之格に相心得可申候

一輕きかな本等之類は只今迄之通權現様奉始御代々様御名御噂事御身之上之儀御物語等之類都而書入申間敷候

六月朔日公本歲厄年ニツキ宮崎社國分寺春日社滿願寺ニ於テ祈禱修セラル

二日領主領民ノ金ヲ強借スルヲ禁ス其文左ノ如シ大目付同狀

一知行所百姓へ申付田畑質地に入金子借出させ候争ひ有之候ケ様之儀有之間敷事候條向後無用に可致候右之外は只今迄之通たるへく候

七日使番南方又八郎ニ目付役ヲ目付役村上又右衛門ニ長壽夫人裏老ヲ命ス

十四日毛利岩之允主水正弟兄毛利主水正師就家督ヲ續ク廿八日登營吉宗將軍ニ謁

ス十一歳

十七日河内太郎右衛門ニ山縣武兵衛替赤間關唐船打方役ヲ命ス

七月廿八日參觀交代之期ヲ定ム其文左ノ如シ德川十五代史

一四月六月其外在所へ御暇被下候面々御暇被下候當日より三十日程滞府候分は斷に不及候三十日を越候は、滞府之譯斷可被有之候

一半年代御暇之面々秋參勤は八月三日冬參勤は十二月三日相殘候様に罷成候向後は定日に無構前月之中旬より八月十二月共に十日頃迄之内勝手次第參府候様に可被致候

同日藤井與右衛門藏元銀子方在勤中大坂ヨリ送付銀四十六貫目餘之受領證ニ關シ



悪計アリ逼塞ノ後隠居ヲ命ス

日不詳此月難波船査檢之制ヲ定ム其文略徳川實紀

八月十一日徳山領七月十七日大風雨被害景況左ノ如シ

屋敷家作並園所破損

高札場四所破損

潰家二百三十一軒

土藏一所

川井手落七十八町

社一字

往還道關浦々海手

堂二字

石垣等損所六百間餘

死人女一人

倒木九百三十七本

獵船八艘

田畑損亡高未タ知レス

八月十二日書院役根來治右衛門辭職ヲ許ス書院役十七年間勤務ニ因リ銀拾枚下付

同日粟屋久右衛門ニ梨羽源左衛門替表番頭ヲ命ス

廿一日肩衣役兒玉勘兵衛ニ與番頭ヲ命ス

廿二日即位ノ禮アケサセラレシヲ以テ五萬石以上及四品以上物ヲ献スルコト例ノ

如シ徳川十五代史

九月朔日大名旗本娼家戲場ニ遊フトコトヲ禁ス其文左ノ如シ大目付同狀

一近年人により風俗不宜不似合遊閑を專と仕其上惡所等へも參候輩も有之候様

粗風聞有之候心得違之面々有之哉年若き一類杯は別而心付自今急度相慎候様

可被致候事

右於帝鑑之間鷹之間老中列座松平左近將監傳達之

一御旗本之面々人に寄り惡所等へも罷越輩も有之様相聞へ候組中支配之内若き

者共心得違候も可有之候間此旨急度可被申開候頭諸役人は一分之慎猶更專要

之事に候

右之趣可相觸旨書付大目付へ左近將監御目付へ板倉佐渡守渡之

十二日國內七月十六日十七日大風雨洪水ニヨリ被害景況左ノ如シ徳山領被害此外ナリ



落井手千五百三十一所

川土手石垣川除一萬六千五百四十間餘

溝千六百六十間餘 道筋六千九百二十間

落橋四十八所 藏五十九軒

樋六十六所 番所十一軒

山崩百四十三所 社一字

流楮凡四萬八千八百株餘 高札場十一所

倒木四千百三十本餘 廻船獵船十一艘

倒家二千七十六軒 田畑損亡高未タ知レヌ

十一月八日國元ヨリ檢見落米報告左ノ如シ

檢見高一萬三千四百九石三斗一升六合

一米二千七百三十七石七斗三升四合五勺

但御國中追損米落米之分

右檢見高ニ七ヲ掛ケ左ノ如ク幕府へ上陳セララル

私領内周防長門之内去七月十六日十七日大風雨洪水等に而田島高九萬三千八百石餘及損亡候尤所々破損之儀は其節申上候右之趣被聞召置可被下候以上

十二月

御名

廿三日世子小五郎元服從三位中將ニ叙任刑部卿ヲ宗尹卿ト稱ス

廿四日毛利刑部少輔匡平讃岐守ニ改ム

廿八日大組頭内藤與三右衛門ニ手回頭役ヲ命シ杉杜六郎ニ大組頭ヲ命ス

十月朔日手回頭國司衛士辭職ヲ許シ班席ハ手回頭次座トナス

五日米價價格定ニ關シ訓令左ノ如シ聞者交付

一米直段次第下直罷成武家並百姓難儀之事に而町人諸職人等に至迄商ひ薄かせ

き事も無之世上一統之困窮におよび候間當冬より江戸大坂米屋共諸國拂米江

戸は金一兩に付米一石四斗以上買請大坂は米一石に付銀四十二匁以上に買請

可申候若右直段より以下に買請申におゐては當月十五日より米一石に付銀十



夕つゝ之運上買請候米屋共より差出可申事

但悪米は運上不差出正米直段に准相應に可買請候萬一正米を悪米之由申ま

きらかし下直に買請候は、是又賣主より急度可申出候吟味之上可相答候

事

一當十月十五日より買請米高賣渡米高一ヶ月切に月番町奉行所え書付差出運上

は賣渡候月より中一ヶ月置に可相納事

一金一兩米一石四斗以上に買請候は、不及運上に候尤賣直段は買請直段に應し

勝手次第たるへき事

但賣直段より買請直段各別下直買請候は、遠吟味可相答事

一右運上申付候儀此節斗と心得十分に買入さる儀も可有之哉米直段不宜内は何

ヶ年も運上申付候間丈夫に直段買上可申事

一運上差上候付而萬一買請不申米屋有之候歎又は邪曲を以紛敷儀仕におゐては

米賣主より早々町奉行所へ申出へし吟味之上急度可申付候若不申出者有之後

日に相知候は、是又曲事たるへき事

一江戸大坂米直段宜相成候として近國より例年に替り俄に米高多積廻し申間敷事

一大坂にては米切手賣之儀も右同前相心得例年に替り米高多一度に切手差出し

申間敷事

一右之通にて江戸大坂米直段宜成候は、右准し諸國共に米直段宜賣買可仕候事

右之通急度相心得米賣買可仕候

右之趣相觸候條其旨相心得御料は御代官私領は地頭より可相觸之旨可被達候

六日長門國美禰郡大田村失火寺一宇民戸及小舎總テ二百餘軒全焼

七日毛利讃岐守へ松平下總守息女縁職願許命アリ

十一日右筆添役赤川又左衛門ニ本役ヲ命ス

十二日財政用務ニ關シ直目付井原藤兵衛ニ歸國ヲ命シ當役中へ親書及傳命書及裏

判へ傳命書藤兵衛演說書左ノ如シ

當役中へ御書



一筆申入候兼而不勝手地道不足之上近年は不意之入用打續別而差詰家來中より  
も重き馳走申付借銀等之方便を以當年迄は且々相調候へ共此先老中招請を初段  
々差向造佐入之儀有之尤家來惠之筋をも申付候はては不相成彼是以至極差調候  
時節に至我等苦勞之程無申計候依之存念之趣井原藤兵衛へ相合差下候此度之儀  
不尋常事候條萬端無用捨被盡思慮宇右衛門伊勢申談何分 公儀内儀相立候仕組  
急度可有吟味候猶此者可令演說候恐惶謹言

十月十一日

大膳 宗廣

御直筆

尙々幾よりも大切之時節候條随分被盡心力國家長久之吟味不能申候此段頼入  
計候以上

毛利大藏殿

一筆申入候兼而不勝手地道不足之上近年は不意之入用打續別而差詰家來中より

も重き馳走申付借銀等之方便を以當年迄は且々相調候へ共此先老中招請を初段  
々差向造佐入之儀有之尤家來惠之筋をも申付候はては不相成彼是以至極差調之  
時節に至我等苦勞之程無申計候依之存念之趣井原藤兵衛へ相合差下候此度之儀  
不尋常事候條萬端被盡思慮公儀内儀相立候仕組無遠慮大藏申談可有吟吟候猶此  
者可令演說候恐々謹言

十月十一日

大膳 宗廣

御直筆

尙々幾よりも大切之時節候條随分申談國家長久取計之儀は各頼入計候已上

毛利宇右衛門殿

毛利伊勢殿 加判

御各紙

御意之旨覺

毛利大藏



右被成御意候 殿様益御機嫌能成御座其外上々様方御勇健被成御座候條心安  
可被存候御國中相替儀無之由追々被聞召上候然兼而御不勝手地道御不足之上  
近年は不意之御入用打續別而御差詰御家頼中よりも重き御馳走被召上御借銀等  
之方便を以只今迄は且々御間合候へ共米穀下直旁に付御國大坂共に差間候段は  
連々被聞召入先頃御手前より主殿方迄此暮御不足之儀被申越趣をも達御間猶又  
當秋御國中風雨之損亡も有之上此先御老中御招請を初段々御造佐入差向尤御家  
來中御惠之筋をも被仰付候はては不相成彼是以至極御差湊之御時節に罷成此上  
地道之御取續右差向候御入用如何可相調哉と別而御苦勞に被思召候然共兎角被  
差拾置候而不相澄儀候間何分急度被致吟味候様にと被思召候段々御儉約御仕組  
等も手を被盡候儀に候へは容易に可相調儀にて無之候間諸事流例格式に不抱被  
致吟味上之御身分之儀に而も被相改可然儀は少も無遠慮被申上いつれの道にも  
御内外且々も御間合候様に随分被盡思慮候様にと被思召候勿論大切之仕組先懸  
候而之儀は急に難相調可有之候間委細相縮所は來年御歸國之上被聞召上御決定

可被遊候條可被得其意候右之趣爲可被成 御意此者被差下候尤宇右衛門伊勢へ  
も被仰遣候間萬端可被申談候猶御書にも被仰入候との御事

毛利宇右衛門

毛利伊勢

山内新右衛門裏判

右三人へ御意書ハ毛利大藏へノ御意書ト末文ノ異ナルノミニテ他ハ同文ナルヲ  
以テ畧ス

演説之覺

一御家督以後御老中御招請之儀最初は上御屋敷御類焼故追而御新宅え可被仰請  
之由被仰入置御普請被成候内虫枯にて御書院等も半途にて被差置 公儀より  
被仰出候御儉約中に付而先御番手も御斷被成置候然處右被仰出候虫附御儉約  
も當年迄之儀來春被仰請度との御事にて御書院内造作並御家具類其外御道  
具御類焼之時分焼失仕殘候分は殊之外古立難御間合惣而御招請一卷之御入用



過分の儀御所帶彌増御差問當暮莫太之御不足之由御國より先頃申來候付兎角御繰出難被爲成可有之候尤世上之聞へ旁先當御在府中何とぞ御斷被成可然と申上本多兵庫頭様へ被成御頼本多中務大輔様へ御直談御彼方様御挨拶兵庫頭様此御方へ御出度々御咄之趣借又大島織部殿を以中務大輔様へ被仰入被成御承知置候段委細御手前存知之通候事

一當御在府中は御招請御延引來々年御參府早々被仰請答候然は來年四月御發駕已後早速より御書院造作御舞臺御庭等其外御道具に至迄御用意一切來年中に出來不仕候ては御間合かたく候事

一御結納之御祝儀當御在府の中可被進之由去々年之秋兵部大輔様方へ被仰入置候へ共御老中御招請御延引に付而御結納も來春被進候様に難被爲成候御結納之儀は御延引被成候而も相濟儀候へ共御婚禮之儀は御双方様御年並も有之第一殿様御部屋住之内とも違一日も被差急度儀候然は御裏御普請差向たる事候ても是は御招請より内は難被仰付候間來御留守中に御裏之御門御長屋長局

等をは目立不申様に調被仰付 御殿之儀も來御留守之内より下地之切組等はそろ／＼調置來々年御招請相濟候上早々 御殿御普請に取付せ御裏一曲輪之御作事不殘出來秋冬之間御結納御祝儀被進候其次之春は決て御婚禮御調被成候様無之候はては不相成候兵部大輔様にてははや御道具調被仰付候様に相聞先頃も此御方御膳具へ付候御紋之寸恰好問來候右之通に而も今年より四ヶ年先之儀少々御延引と申程之儀候右御裏御普請一途之御入用御結納御入與之御入目御裏御仕渡米御裏年寄を初御付々へ之諸勘渡に至迄夥敷儀共に候日光御社參御國廻り等は御延引も可相成儀候へ共御老中御招請御婚禮は來る御番手中御延引不相成候事

一右御招請を初御裏御普請御結納御婚禮等之諸御入用凡之積り書別紙に有之候事

一御家來中も重き御馳走今年迄五ヶ年相續き候へは且々も取續候様に御救をも被成候はては不相澄候御事



一御所帶彌増御差詰當暮之御不足莫太之由先頃御國より申來候爰元も當暮迄に御仕送無之候て不相叶御送り不足大分之事候今年は火之御番をも不被仰付其外各別之御造佐入只今迄は差而無之地道一通り之儀重而之御番手は決而火之御番をも御奉り可被成候其外段々之御造佐入有之儀候處ヶ様被差詰候段別而御氣毒被思召候趣御手前承知之通候事

一御老中御招請御裏御普請御婚禮等之御造佐入凡千貫目程と相見候 殿様之御所帶に而はさのみ大切之儀とは不被申候へ共近年之通御家來中より御馳走地下え出米被仰付候而も地道御不足に相成年増御借銀莫太に相成候様に有之候ては往々之所別而無御心元御苦勞不大形儀候間何とぞ御所帶立直御借銀等も段々致減少地道之御運ひ無御様子相調候様根え入たる御吟味有之候様にと被思召儀候間此段能々可被申達候事

一此御方へ御本門御長屋廻御殿御中屋敷等御普請相調見懸立候故歟御勝手も立様世上取沙汰も有之由御出入之内申衆も有之 公儀人衆なと御不勝手之由右

挨拶候ても外人請取不申候様有之勿論上向も右之趣に相聞候付若は近年之内御普請御手傳等被仰付間敷物にても無之候然は假令御老中御招請なと被爲成候而も至極御不勝手之段被仰立被仰斷度儀と爰元御着以來申談候依之御手寄之方えは別而御不勝手之趣委細被仰入置御出入之衆へも御差詰之段連々申達先頃御國大風雨損亡之儀をも御一門様方其外えも御知せ被仰付候於御國も隣國他國之聞え且 公儀物聞等も可有之儀候……間諸事引替御儉約相見候様に心得肝要之由可被申達候至極御差詰と違御内福候唱有之段上に別而御氣毒被思召御儉約之廉相立候様に毎々御意被成萬端御慎御身分之御物數寄と申儀も一向不被遊候段御手前存知之通候事

一御客方御出入之衆え御懸合被差出候儀も近年は一汁三菜にて候ても可相成程は不被差出時分に御出候衆えは無據一汁三菜隨分料理具輕く相調させ外よりも殊外料理惡敷と申唱有之候様に申付候尤御菓子吸物等被差出候儀も箱菓子は被差置大概葛練黍餅等被差出御相伴之御客之外は一切氷砂糖不被差出候且



又箱菓子被差出候儀有之節も敷砂糖不仕候事

一御案内之御客は一切不被仰請候へ共先頃松平陸奥守様松平相摸守殿此御方御出被成御彼方様へも被仰請度之由於御城御直に被仰候故段々御断をも被成候へ共兎角御出可被成候由にて陸奥守様えは先殿様被仰請候付て無據此御方え陸奥守様御父子様被仰請其後相摸守殿被仰請候尤屹度御案内にては無之兩度共御懸合之御唱にて一汁五菜御料理被差出二ノ膳も不被差出候事右之廉々御手前委細存知之儀候間具に可有演説候此外之儀も見及聞及候處可被申達候以上

十月十一日

十三日松平越後守長死去公往テ弔セラハ江戸京大坂邸及萩山口三田尻鳴物停止三

日間長照祖先松平越後守光長室ハ秀就息女登佐子初越後高田後作州津山

十五日長府領清未領風雨被害景況幕府報告左ノ如シ

長門國之内支封内五月十七日二十二日二十三日洪水七月十七日大風雨破損被害

之覺

一田畠高四千七百九十四石餘

内 三千二百二十二石餘

當荒

内 千五百七十二石

永荒

一落橋七十ヶ所

一川土手堤土手崩三百四十ヶ所

一倒家貳百四十一軒

一半倒家百八十九軒

一倒木九百二十五本

一怪我人牛馬損無御座候

右之通御座候配地同姓讃岐守領分損亡等之儀ハ從彼方可申上候以上

十月十五日

毛利岩之丞

長門國之内私領分當五月十七日同二十二日同二十三日大雨洪水七月十七日大



風雨高波付而損亡被害之覺

一田畠高貳千八百十一石二斗六升餘

內

千貳百九十四石六斗餘

九百十九石二斗六升餘

五百九十七石四斗餘

一川土手切六十二ヶ所

此間數千三百三十六間

一往來道崩八ヶ所

此間數二百二十七間

但在鄉道筋共ニ

一井手崩九ヶ所

此間數百二十三間

一井手掛溝埋六ヶ所

此間數四百八十一間

一山崩大小五十四ヶ所

一川岸崩二十七ヶ所

此間數四百七十三間

一潰家十六軒

一掛樋流大小五ヶ所

一土橋落大小七ヶ所

一海邊土手切百五十三間

一浦邊石垣崩十八間餘

一社倒一社

一倒木三十二本

一怪我人牛馬損無御座候

當荒

潮入當荒

永荒



右之通御座候以上

十月十三日

毛利 謙 岐 守

同日福原二郎右衛門切手米毛利宇右衛門領人民ニ運搬出津セシメ毆打ノ旨趣訊問ノトキ審問吏へ對シ暴戻不敬ノ陳述ヲ爲シタルヲ以テ逼塞ノ後隠居ヲ命ス

廿三日吏員職務ニ付公用トテモ諸士ニ對シ殿書ノ手簡ヲ發スルコト得ストノ古法

於永五年江戸ニ之趣ヲ以テ享保十九年訓令アリ因テ目付中ヨリ徒目付へ差紙殿書手簡

發付ニ關シ同年十二月三日伺書提出セシニヨリ地江戸老臣交渉ノ結果向後目付ヨ

リ徒士目付へ差紙交付禁示スヘキ指令アリ

目付ヨリ問箇條寫

奉窺候事

差紙之儀古來より差越來候處は各別其外時々之沙汰を以差紙遣儀は不相成事候條此已後御徒士目付え差紙被致無用前々之通御在國は御城當番御留守は月番所詰居候御徒士目付え御用筋可被申聞候事

私共え被付置候御陸目付御用にて被召仕候節は私共同役中え御差紙を以其沙汰可仕候旨被仰付候故御在國は御城當番之御陸目付え御用筋申聞せ右之趣御陸目付より出勤之者沙汰仕遂其節來候へ共定役之手子之儀第一御用筋差當沙汰可仕儀を又傳に沙汰仕候段いか、敷其上差問候廉も御座候故先年宍道玄蕃殿御當職之節御差紙を以被仰付候御用筋並其類之御用事を以御陸目付中え差紙を以沙汰可仕哉之段相伺候處其通に沙汰可仕通木梨平左衛門え被仰聞候其節相勤候御目付只今殘居候者も御座候故承合候處申傳之通相違無御座候然るにいか様之趣御座候哉近年差紙中絶仕御徒士目付より私共申聞せ之趣を以御陸目付同役え沙汰仕候差紙差止候趣何ぞ控物等有之候哉と御役所讃談仕候處其筋一切書記候物無御座候併定役手子主頭之儀其上諸事差紙を以沙汰仕候筋も無御座被仰付之旨を請其趣沙汰仕事御座候へは差紙を以沙汰可仕儀と相見候故旁之趣去丑の春毛筑後殿え同役中より御伺申上候處尤候筋被思召候間向後差紙を以沙汰可仕旨毛利四郎左衛門村上又右衛門え被仰聞去春以來御用筋



之儀差紙を以沙汰仕候然處寶永五於江戸御沙汰相成候由にて先頃御書付被差  
出候右差紙古例も有之脇々其類も有之様に相聞候へ共私共御役筋にては先頃  
之對御書付下にて決定難仕候付御窺申上候條執之道にも御肩書被成被下候は  
は其辻を以沙汰可仕候以上

寅十二月三日

御 目 付 中

十一月十一日大目付回狀左ノ如シ

先達而相觸候金一兩に米一石四斗以上は上米の相場にいたし下米は一石五斗以  
上に買請兩様ともに右直段より下直買請候は、先達而相觸候通運上米屋可差出  
候中米は右上米一石四斗以上下米は一石五斗以上之直段之内にて其米に應し賣  
買可致候間運上差出候儀は無之由米屋共願出候に付願之通申付候間拂米等其心  
得可有之候右之通相心得下米之儀も金一兩に一石五斗已下に買請候は、最前相  
觸候通米賣主よりも可申出候右之外は先達而相觸候通に可相心得候  
右之趣相觸候條其旨相心得御料は御代官私領は地頭より可觸旨可被達候以上

卯十一月

同日今年三月二十一日新帝即位中御門天皇使者福原豊後ヲ上京拜賀セシム豊後是

日參内太刀一腰馬代白銀三十枚ヲ傳奏宮ニ呈ス亦太刀一腰馬代白銀二十枚ヲ仙洞ニ呈ス

十二日毛利山城守廣豊男久米三郎後志守廣寛防州徳山ニ生ル母家

十四日隨浪院吉川元春百五十年忌山口瑠璃光寺ニ於テ法會修セラル香奠銀一枚銀七枚

米十俵納付

十五日武家米拂下之制ニ關シ發令左ノ如シ大目付回狀

一先達而米定直段相觸候以後脇々之米屋え品を付下直相拂又は金子代りにも米  
下直に相渡候面々有之由相聞候河岸八町之米屋共え御定直段之通拂候得は勝  
手にも可能成候脇々え相對を以狠に相拂候ては米直段障候間自今河岸八町之  
者え賣渡候様可致候

廿一日無給通熨斗目着用ニ關シ訓示左ノ如シ

覺



無給通熨斗目着用不被仰付段は先年より度々被仰出候尤御裏付御被官役公儀所  
付之儀御用に付着用不仕候はて不叶儀於有之は其時々御裏年寄御留守居衆承届  
着用仕せ候様被仰付候然處近年御儉約に付御被官御無人故御裏々御算用方筆者  
等御被官所をも相勤させ候儀有之に付熨斗目着用被申付候由相聞候年始御供使  
御被官所相勤候は、其時々着用可被申付段は左様も可有之儀候へ共常々以御被  
官同様に可令着儀にて全無之候條向後之儀御被官之外は無給通り熨斗目着用一  
切可被差留候尤御算用方筆者等御被官所え被召仕熨斗目着用不仕候はて不叶節  
は其時々御用所並御目付所え被申出差圖を請可被致其沙汰候事

享保廿卯十一月廿一日

廿九日慶長金新金共切疵之分通用ニ關シ訓令アリ略大目付回狀

晦日東海道本坂通路禁止ニ關シ大目付回狀左ノ如シ

東海道本坂通之儀は先年相違候通無用に候併參懸り風雨又は急病等にて渡海難  
成儀出來候は其節は格別に候尤人馬は不出筈候間若被相廻候共手廻計にて相廻

り可申候左候は、其段旅中よりも可被相届候

右之通可被達候

十一月

同日武家米拂下之制ニ關シ發令左ノ如シ大目付回狀

武家方拂米在方商米ともに當地にて相拂候分は如古來河岸八町堀江町小網町  
米屋ともえ引請買取候筈に候條右之外米屋等え相拂申間敷事

一所々在々より出候白米商賣令停止候間在々より白米不差出様に可致事

但右在々より出候白米は當地米屋共えも商賣不致様申渡候

右之通關八州御料は御代官私領は地頭より早々可被相觸候以上

卯十一月

右之趣可被相觸候

十二月二日松平庄二郎家督松平越後守ヲ祝シ使ヲシテ太刀金馬代干鯛一箱遣ラル  
七日月價之制發令左ノ如シ大目付回狀



一今度米賣買元直段相定右極より直段せり上候儀は商人共勝手次第たるへき旨申渡候處當分致し馴さる事故米之捌け不宜候に付問屋四人中買之者之内拜借金申付猶又下米直段之儀も米屋共願之通申渡候然上は相觸米直段買立可申處少々つゝならては買取不申故直段も居り相見え候事

一拜借金申付候者共は不及申其外之米商賣之者共來春に至り米直段下り可申哉又は元直段定後々は相止め可申歟杯と大坂表之風説を承り傳へあやぶみ例之通買込不申と相聞不届千萬候たとへ米捌方不宜候共日々の入用程は無滞相捌候然は此定相止申事會て無之儀候此間列座にて申聞候通候事

一先頃元直段相極候節最初一石四斗に極置米屋共せり立買込候は當暮來春に至ては一石二三斗位に可相成と何も評議之上右之通候所今日に至り米屋共例之通買込不致候如斯候ては次第に入船之米も差支可申候逆も今迄之趣に候而ははかく敷買立可申様子に不相見候間十二月五日より上米一石三斗五升以上下米一石四斗五升以上之直段相定夫より段々春中は一石二斗以上に可相極候

尤直段上げ候節々前日可相觸候條其旨存へし若此以後米屋共精出し格別儀數多く買込をのつから直段も上り候は其節之直段を元直段に用ひ勝手次第直組致賣買候様に可申付候事

一例年夏中江戸大坂え北國奥州邊之米入津候今年豊年にて來春中近國之米過半不相捌内右邊國之米入津候ては差支可申と令評議一度に入津不致様に近日相觸候間萬一其上にも滞儀有之候共米屋共少も損失不致様に奉行共作略致可遣候間來年中は石一兩にも可及候條其旨可相心得事

一右之通江戸米屋共え申渡候條爲心得相觸候此以後米直段上げ候度々には相觸間敷候間江戸米屋共え直段聞合右に準し宜可致賣買事

右之通關八州伊豆甲斐駿河遠江三河美濃伊勢尾張御料は御代官私領は領主地頭より可被相觸候以上

十五日目付役南方又八郎ニ關在番兼勤ヲ大組物頭大多和惣兵衛ニ馬場先夫人裏老ヲ三戸忠左衛門ニ大多和惣兵衛替大組物頭ヲ命ス



十八日德川右衛門督森姬君ト結婚十九日諸大名惣出仕

三十日法林夫人付醫師飯田道立家柄ニツキ江戸在番中役人通ニ準シ若黨絹羽織且長柄傘ヲ許ス

此月米價之制發令アリ德川十五代史

一米直段上げ候儀當年中は當月五日より之直段を用賣買可致候右直段より高直に賣買いたし候儀は勝手次第に候且又來正月四日初賣買より上米金壹兩に一石二斗五升以上下米は一石三斗五升以上に賣買可致候尤來正月右直段より高直に賣買之儀勝手次第たるへき事

元文元年五月七改元丙辰正月公江戸邸ニ在リ

十九日松平左京大夫夫人死去松平下總守夫人綱廣公息女馬場先夫人也實子ノ忌服受

ラル

二月十一日米價ヲ定ム發令左ノ如シ德川十五代史

米定直段

上米金一兩一石二斗 下米金一兩一石五斗

下々米金一兩一石七斗五升

是は惡米にては無之候得共米性惡糶米等に相捌候米也

右明十二日より書面直段之通急度相守可致賣買候尤直段より高直に賣買致候

儀は勝手次第ニ候事

同日毛利外記廣包毛利伊勢元雅久シク病ニ伏ス江戸ヨリ奉書ヲ送り尋問セシム

十八日宍戸大學領地境界山野年來爭論ヲ生セリ調査ノ結果遠慮ヲ命シ開作地沒收

十九日當職毛利大藏餘寒中尋問ノ爲江戸ヨリ奉書ヲ送り鹽引鮭二尾下付

廿三日加判毛利伊勢死去年三十五嫡子毛利彦次郎ニ弔書ヲ賜ヒ香奠銀三枚下付

廿五日有馬日向守孝純弟重廣重就養子實有馬左兵衛佐一準男

宇田川邸ニ生ル母毛利甲斐守匡廣女綱廣外孫吉廣養女公邊ハ享保十九年辰出生ノ唱ナリ

三月朔日玉川上水組合大通戸樋筋享保廿年四月ヨリ十二月ニ至ル修築高割出銀道



奉行ヨリ回狀來ル吾藩高三十六萬九千四百一十一石ニ對スル出銀一貫六百六十二匁三分五厘納付高百石ニツキ銀四匁五厘宛兩替六十目ノ數也

十日遠近方山縣藤助所帶方字野與一右衛門用務アリ國元ヨリ出府セシムルニヨリ金三百匹下附

十二日吾邸望火格ハ三丁火消ニ關シ櫻田邸麻布邸ニ蒞雇二人中間七人ヲ置キ晝夜ノ望火ニ從事セシメタルニ幾分ノ費費ヲ要スルニ由リ兩邸共蒞雇ヲ廢止シ中間三人ヲ置クコト、セリ

十四日洞春寺祈禱ノ三百部本年一萬二百部ニ達ス因テ諸事萬部ノ式行ハレタリ洞春寺ノ請願ヲ許シ是日ヨリ十六日ニ至ル三百部修セラル萬部式ハ能舞開催ノ例ナルモ近年儉政中ニツキ能舞ヲ止メ囃子トナシ菩提所中へ吳服二宛下付

廿六日尾寺長左衛門右筆ヲ免シ大組ニ加へ留守居益田圖書手元役ヲ命ス

廿七日留守居益田圖書着府四月十八日黒印令條ヲ授ク

廿八日使番三浦又右衛門江戸二番手且十九年間勤績ニツキ紋章羽織羽二重下付

四月六日毛利彦次郎ニ伊勢躰職ヲ命ヌ知行高六千五百五十六石二升六合ノ地ヲ領セシム

十三日毛利讚岐守匡平登營參勤拜謝ノ爲メ也

十六日公歸國暇ヲ賜フ將軍及大納言ヨリ賜物如例

十八日公登營拜謝馬ヲ賜フ如例

同日回神舍人ニ毛利岩之允後重母家女房津禮裏老ヲ命ス

廿一日公江戸發駕

五月七日享保ノ年號ヲ元文ニ改ム諸大名惣出仕公歸國旅行中飛札ヲ呈シ祝セラル  
十二日新金銀改鑄ニツキ發令左ノ如シ大目付同狀

覺

一世上金銀不足に付通用不自由の由相聞候付て此度金銀被吹改候事

一此度吹改候金銀相渡候儀慶長金新金は百兩の代り百兩乾字金は二百兩代に百兩慶長銀新銀は十貫目の代り十貫目引替可相渡候間右引替の格を以書面の金



銀無差別取交請取方渡方兩替共無滯通用可致候尤も上納金銀も可爲同前事

一吹改候金銀金座銀座より増歩差出可引替候員數の儀は引替金百兩に付増歩金

六十五兩つゝ引替銀十貫目に付増歩銀五貫目つゝ可相渡候

一引替候金銀町人より引替候筈に候條武家其外共に勝手次第町人へ相對にて申

付可引替候事

一引替に可差出金銀の儀員數相知候事候間貯置不申段々引替可申候若貯置不引

替もの相知れ候は、吟味の上急度可申付候事

附右引替に不出銀は今迄の通潰銀の積り可相心得候事

右條々國々所々にて可存此旨者也

此度金銀引替の儀來月十五日より金銀座にて引替候間可得其意候

一右引替の儀爲替兩替の者共取集金銀座へ差出引替候間右の者共方へ申付金銀

引替可申候

一右爲替のもの共金銀引替候節爲諸入用金一兩に付銀一分宛銀百目に付銀一分

五厘宛の積を以金銀高に應金銀主方より請取筈に候若右の高より多く請取候

歟又は無謂引替爲滯候は、勝手次第外町人又は直に成とも金銀座へ差出引替

可申候

但金は百兩銀は十貫目以上可致持參候爲替の者方にて引替させ候員數は勝

手次第たるへき事

十八日令ス德川十五代史

一金銀借貸買賣共今度吹替出來候已後は古金新金割合無差別通用相互に可致候

金銀出入に付出入取上げ無之候證文等立替の儀は先達て御定の通り也

一小判金目貳匁八分相定正味二匁四分五厘銀サシ三分五厘

一銀三十匁正味二十六匁三分五厘銅サシ三匁七分五厘

廿三日公歸城是日佐世藏主ニ歸國禮使ヲ命シ出府セシム

廿六日公諸臣ニ謁ヲ賜フ二十八日步行初トシテ宮崎八幡社ニ詣ス

同日公歸城後本番手遠近檢使平岡四郎左衛門井上與一右衛門松浦義右衛門三宅新



兵衛御用方中尾久左衛門阿部吉右衛門有吉彦右衛門御數寄屋方吉津利仙及中間二人二十二日大坂ヨリ三田尻へ向ケ航行ノ途次攝州一ノ谷沖碇泊中俄然暴風ニ逢ヒ淡路沖ニ於テ激浪ノ爲メ船底破碎シテ終ニ顛覆セシカ搭乗員ハ無事ナルモ貨物ハ盡ク沈没セリ岩屋ヨリ救助船ヲ出シタルヲ以船ヲ借リ播州路へ渡航上陸歸國ノコト大坂檢使野村與一右衛門ヨリ報告セリ

同日加判毛利宇右衛門來江戸供從ノ命アリ

此月西城月並出仕之制發令アリ長文ヲ以テ略ス德川實紀

六月朔日近年諸臣奢侈法ニ越ルモノ多シ是日享宴ノ制ヲ定メ發令嚴然儉省ヲ守ラシム其文左ノ如シ御黒印御書付御張紙控拾

覺

殿中諸番所は不及申野相等に至迄惣て役場にをいて酒飯停止の段は先年より被仰付有之通の處猥の儀間々有之様に相聞候御儉約の御時節於面々も別て不勝手の事候得は主客共に猶更其慎可有之儀候處無據趣を以準候儀有之段甚以不心得

の儀且は傍輩間の挨拶を專に仕當分内證も差詰御役も難續畢竟御奉公を忘候仕方相成此譯急度可被致分別儀候向後の儀愈以堅停止被仰付候若相背候族於有之は主客共急度可被相答候此段御目付衆へも能々被仰付候事

辰五月

覺

諸番所諸役場にて酒飯停止の儀別紙御書付被差出候御番食認不被仰付證人筆者手子等の儀は御用爲通達輕き辨當差出候儀は不苦候尤差出候節は時々名付御目付所差出可被申候且又火用心のため旁煮燒候儀は一切不被仰付候間輕き煮染にて茶漬可被相用候右の趣内意申候様にとの御事

辰五月

同日公定ノ米價ヲ停ム發令左ノ如シ德川十五代史

此度金銀吹替も有之付て先達て相觸候米定直段相止候依之御切米並知行米在方商米共河岸八町堀江町小網町淺草藏宿に不限如前々何方にて成共勝手次第直段



相對の上拂可申候

三日玉川上水組合大通虎門櫛形内ヨリ外戸繩修築出銀ニ關シ道奉行ヨリ廻狀アリ  
吾藩石高三十六萬九千四百十一石ニ對スル出銀一貫八百六十五匁三分四厘納付セ  
ラル高百石ニ付銀五分四毛九絲五  
忽宛兩替六十目ノ積リナリ

四日ヨリ五日ニ至ル吉川元長百五十年忌岩國萬德院ニ於テ執行ニヨリ萩ヨリ使ヲ  
シテ香奠銀三枚納付セラル

十五日是日ヨリ兩國文ノ字金銀通用アリ古金百兩ニ付文ノ字金百六十五兩古金十  
貫目ニツキ文ノ字銀十五貫目如此増歩ヲ賜フ草會年表

廿一日大御納戸手子大中市左衛門伊藤七郎兵衛公歸國ノトキ大御納戸衣類長持一  
掉途中ニ於テ沈水セシハ疎漏緩怠タルニヨリ逼塞ヲ命ス

此月長崎奉行に令シテ唐船數四艘ヲ減シ又錢賣買不自由ニヨリ蓄錢ヲ禁ス令文略

德川實紀

七月廿一日在江戸諸臣外出ニ關シ訓示左ノ如シ

御家來中在江戸の中御門外罷出候節其頭々自分支配の衆同道の時は切手無之候  
とも不苦候尤夜に入候迄御屋敷不被罷歸儀候は、右同道の面々兼て奉行所へ相  
達差免候上可被致同道の由享保五年の書付に有之候然は頭々自分支配の衆へ切  
手差出候所を同道の儀故不及切手候處兼て被定置候自分用切手の外も同道にて  
被罷出候衆有之由相聞候先年當役中よりの書付委細に無之候故間違候物と相見  
候彌以向後は一ヶ月御寺參兩度自用切手兩度被定置候内頭々同道にて切手無之  
候共被罷出候儀は不苦候事

廿四日粟屋五郎兵衛ニ市川三右衛門替大組弓頭ヲ命ス

廿五日當役桂主殿來江戸供從ヲ命シ脇差左ノ行無銘附  
金十枚折紙附下付

廿八日波多野源兵衛内藤新左衛門ニ銀七枚佐々木彌六乃美與右衛門ニ銀五枚下付  
數年近侍ニ勤仕ノ勞ニ因テ也

八月朔日養子女ノ制發令左ノ如シ德川十五代史

一親類遠類又は由緒有之者にても養弟又は養妹にいたし候儀向後可爲無用候養



はすして不叶子細有之者は養子に可相願候縁談取組候に付養女に致し可願と  
存候ても養子に雖成年齡に候は、何之續或は何の由緒有之手前へ呼取誰方へ  
婚姻相願候と願書可相認候

二日諸臣馳走米ノ内返付ニ關シ黒印令條及老臣添書左ノ如シ

數年不勝手につき家來中より重き出米打續困窮の段聞届何とぞ惠遣度種々吟味  
申付といへとも年來の借銀差淺其上米穀下直旁返濟の儀は差置借銀彌増に相成  
且來年は御老中招請を初作事等差向無據入用其引當もこれなく彼是至極の差聞  
故諸事堅儉約沙汰申付所に莫大の不足に付救の筋各別の吟味に絶漸近年の出米  
の内今年より少々返遣候條家中の面々此趣を存此上なから随分令儉約可遂奉公  
委細年寄共より可申聞者也

元文元年八月二日 御黒印

覺

一御所帶御逼迫に付數年打續御馳走被召上御家來中大小身共に困窮の段別て御

苦勞に被思召御救被成被遣度種々吟味被仰付候へ共年來相續候御借銀莫大に  
相成近年米穀下直に付大坂の繰卷差障其上來年は御書院御造作御老中御招請  
且御裏御普請御結納御婚禮等彼は無據重き御入用差向候所其御引當も無之尤  
往々御取續の筋も不相見至極御差聞の時節に罷成堅御儉約を被盡候得共過分  
の御不足諸御入用一向行届不申儀に付御惠の筋不被任御思召漸近年の出米の  
内今年より少々被返遣猶別紙段分の通今來年御馳走可被請替候事  
一病者幼少並不勝手に付當分御扶持方被下置候面々御馳走も近年の趣を以被召  
上候事

一未定方其外諸支配所近年貸渡被仰付候公米銀今來年先利留被仰付手取石は不  
殘被渡遣候條面々遂吟味取續之可有覺悟候事

附自今如何様の差聞有之御歎申出候ても絶て御吟味無之尤暮に至御貸米銀  
等可被仰付御引當も一向無之候條兼て此趣能々可被相心得候然上は無據  
造佐入有之取續難相成面々平人は不及申御役人は御役被差替御扶持方可



被下置候事

一 愁訴願事御儉約中一切被差留候事

右御家來中能々被存此趣大小身共に可有其心得候以上

辰八月

桂 主 殿

福 豊 後

毛 宇右衛門

毛 大 藏

宍 美 濃

御馳走出米段分覺

一 高百石以上

但高百石に付現米十三石掛り

一 高七十石以上

但高百石に付現米十一石六斗掛り

一 高五十石以上

但高百石に付現米九石掛り

一 高四十石以上

但高百石に付現米六石八斗掛り

一 高三十九石九斗九升以下

但高百石に付現米五石掛り

一 足輕以下

但現米十石に付三斗掛り

一 病者幼少の儀は此度の御馳走惣の當り五朱増被仰付候事

一 御扶持成の儀は御了簡を以此度の御馳走惣の當り二朱増被仰付候事

一 寺社家御馳走の儀は惣の當りの内三步二被召上殘三步一被差除候事

一 御切錢持合の分は如古法五石和市にして被召上候事

附永々銀持合の分は下々勝手次第米銀の間を以可被召上候銀子を以差上候



時は二石和市にして被召上候事

一被石へは御馳走米被差免候事

一二人扶持計の者は御馳走被差免候然共一人扶持にても切方持合二人扶持より上に相候へは御馳走被召上候事

一御雇衆隠居料女中の恩扶持一步引にして被遣候事

一旅役銀の儀御馳走出米就被仰付公銀を以勘渡被仰付候事

右辰巳兩年御家來中御馳走米高百石に付現米十三石掛り前書の段分を以被召上候以上

元文元辰八月

六日藏元兩人役檜崎吉右衛門中村孫右衛門ニ札方厚母惣左衛門役座廢止ニ付札方兼役ヲ命ヌ吉崎作右衛門ヲ大組ニ加ヘ藤井庄左衛門替大島郡代官ヲ命ヌ

八日山縣市兵衛大檢使ヲ免シ大組ニ加フ

十四日貨幣ノ制發令左ノ如シ大目付同狀

一此度銀吹方の儀引替高に應し無滯吹立候筈候隨分無油斷引替可申候新銀古銀

割合の儀暫の内に候由先達て相觸候通に候間隨分精出し引替可申候割合相止

候節に至一度に申込候ては急吹出來不申諸人難儀可致候間此節より日々精出

し京大坂へ國々より集り候古銀於京都引替所に引替可申候

十五日大坂留守居井上源三郎ヲ召シ歸國セシム大坂用聞上田三郎左衛門ト出財ノ

協議完了セシメン爲メ源三郎ニ銀十枚下付三郎左衛門ニ國元老臣ノ意旨ヲ傳フ

十八日公使ヲシテ當役桂主殿ノ病ヲ尋問セシメ生肴一折ヲ賜フ

此月大坂駿府甲府ニ訴訟箱ヲ置キ高札ヲ建ツ江戸高札ノ文ニ同シ德川十五代史

覺

一御目付罷越逗留中來る幾日御目付小屋門前へ訴訟箱出置候間江戸へ言上仕度

儀有之は書付持参いたし右の箱へ入可申事

勘奉行へ訓令あり略す

九月二日無給通井上彦平家計切迫ニヨリ在郷住居中逃亡ニツキ給米沒收セララル



三日文ノ字金銀通用ニ關シ發令左ノ如シ德川十五代史

一先達て相觸候通御年貢小物成諸運上物諸返納物等の納金銀此度吹改候文字金銀にても古金銀にても割合の無差別金一兩はいづれの金にても一兩銀一貫目はいづれの銀にても一貫目の積り其納高に應し可相納候

右は相知れ候事に候得共末々百姓共とくと吞込不申ものも可有之と猶又相觸候間末々百姓共迄能々吞込心得違無之様に可仕候尤も村々へ早々相廻し取寄の私領寺社領村々へも可申聞候

五日諸道驛々へ改鑄ノ金銀通用ニ關シ訓令アリ略ス

十二日入江四郎兵衛直目付ヲ免ヌ梨羽木工ニ藤井五左衛門替表番頭ヲ大和嘉七郎ニ福原三右衛門替手回頭鐵砲頭ヲ湯淺猪右衛門ニ勝田新衛門替大組鐵砲頭ヲ市川孫右衛門ニ志道太郎左衛門替大組鐵砲頭ヲ乃美孫左衛門ニ熊谷七郎兵衛替大組鐵砲頭ヲ命ス

十八日鈴木飛彈守公儀人ヲ招キ服忌令及添書ヲ交付ス享保二十一年元文中不審ノ事

鈴木飛彈守へ質問ノ旨趣掲載セリ

服忌令ハ德川實紀元文元年九月十五日欄内ニ載ス元禄ノ服忌令ヲ改長文ナルヲ以テ略ス

服忌令追加此度林大學頭其外儒者共へも吟味被仰付候て被書加或は被相除或省略の品も有之候只今迄は服忌の儀臨時に林大學頭へ被承合候へ共委細被相載候上は大學頭へ承合候に不及紙面を以平日相糺し置可被申候若難心得所も候は兼て大目付へ承合置向後忌掛り尋候儀無之様に可被致候一所々へ相渡候服忌令數通の儀付若書違等有之候てはいか敷候付板行申付候て大目付御目付より可相渡候間承合可被請取候

十日朔日城代役井原大學多年勤務ニ付召下上下一具下付

十一日中村與右衛門ニ神村五郎右衛門替表番頭ヲ生田猪右衛門ニ竹内庄兵衛替吉

田代官ヲ命ス

廿一日林小左衛門ニ赤川半兵衛替大組鐵砲頭ヲ命ス大組鐵砲頭赤川半兵衛ニ宇田



川夫人衰老ヲ命ス出府末國與左衛門ト交代セシムヘキ命アリ

廿四日田鶴君花山院内死去養心夫人姉妹ノ服忌十日受ラル公大叔母ニヨリ服忌ナ

シ萩山口三田尻十一月十一日ヨリ十三日ニ至ル鳴物停止セラル

十一月四日加判宍戸美濃廣隆疱瘡ニ罹リ死去香奠銀三枚下付

十一日齋藤治右衛門江戸ヨリ大廻リ貨物ノ内寄棒アリ寄棒ハ武器ニ付浦賀番所ニ

於テ沒收セラレタルニヨリ逼塞ヲ命ス

十二日九月十五日女御入内使者浦主計ヲ上京拜賀セシム主計是日萩地發程

十四日貨幣ノ制發令左ノ如シ大目付同狀

此度金銀吹改候付諸色の直段文字金銀にて可被相立所に右文字金銀其節は吹出來不申候に付諸色代物暫二三ヶ月の内割合を以取遣り可仕由申渡候此節は段々金銀吹出來三十上へ出候付割合遣候儀可相止處急に行當り候ものも可有之候間先此度は割合遣相止候儀は不申渡候來年に至り候は、割合遣ひ可相止候間其心得にて此節より随分古金銀文字金銀に可引替事

一在方にては今以古金銀專に相用候由不埒候前條の通随分引替文字金銀專に可相用事

一銀の儀遠國にては猶以古銀を用文字銀通用不致由依之銀引替別て少く不埒の至に候來年は割合遣ひ相止候儀も可申渡候に付其節は可行當候尤只今迄の通銀引替高少く候は、來來より銀百貫目に付増歩銀五十貫目相渡候内を減候様に可申渡候間此節より随分精出引替可申事  
一年貢合力給金借金買掛り地代店賃賃物田地質等彌以無割合古金銀文字金銀同様に取遣り可仕事

右條々國々所々にて此旨を可存候

右の趣可被觸候御料は御代官私領は地頭より相觸候様可被達候

辰十一月

廿二日新陰者内藤又左衛門馬頭取役檜崎四郎兵衛紋章麻上下一具下付

廿九日當職毛利大藏老體勤勞ニヨリ色羽二重二匹下付



同日市川三右衛門ニ養心夫人衰老暫役ヲ命シ手回組ニ加フ三右衛門來春上京見玉  
傳右衛門ト交代セシムヘキ命アリ

十二月三日益田越中領地須佐浦家數七十七戸全燒ス

四日封内春來屢風雨アリ五月六日十月五日六日最モ甚シ稻田其外被害ノ景況幕府

へ上陳左ノ如シ

一高八萬四千五百石餘

一土手石垣井手川除七萬四千九百二十間餘

一溝一萬千六百六十間餘

一道筋千五百二十間

一落橋十一ヶ所

一樋二十六ヶ所

一倒木三千二百本餘

一倒家三百三十五軒

一藏十二軒

一高札場三ヶ所

一番所二軒

一波戸十五ヶ所

一廻船獵船百五十六艘

一溺死九人

内男五人

一死牛馬十一疋

内馬六疋

内牛五疋

長府徳山領被害報告ハ左ノ如シ

長府損害高一萬五千六百三十石ノ内虫付一萬四千四十三石餘

徳山損害高一萬四千二百七十三石餘ノ内虫付一萬千五百五十三石餘

同日貨幣ノ制發令左ノ如シ大目付同狀



一錢の儀江戸より諸物の價在方へ取之又江戸へも錢差出相拂令通用候處金銀吹直被仰付候以後別て在方錢相場江戸より高直に仕江戸へ差出し相拂不申在方へ錢持參候様に仕或は賣溜錢等貯置候ものも有之由相聞へ不届之至候向後は前々の通錢江戸へ出候様に可仕候萬一以後貯置候者有之候は、吟味の上急度可申付候尤錢相場高直に仕間敷事

五日阿武郡大井村失火民家百二戸焼亡又長府領豊浦郡安岡村發火民家百五十八戸全燒幕府へ報告例ノ如シ

十日審安院三寶院居養心死去養心夫人叔父ノ忌二十日受ケラル二十一日ヨリ二

十二日ニ至ル萩山口三田尻鳴物音曲停止

廿一日穴戸志摩忌服ヲ免シ美濃跡職ヲ命ヌ

廿二日御馬乗山縣勘四郎幼年ノトキ父仲七乞願アリ人見流修業セシニ目今人見流ノ指南ヲ要セサルニ因リ祖先傳來ノ八條流ニ變更ノ請願ヲ許可ス

廿八日儒者小田村久助銀二枚下付弓法山縣吉兵衛金一兩下付去今年明倫館皆勤ニ

依テ也

日不詳扶持方ノ輩集會出席ニ關シ寄組及扶持方成ノ輩ニ對シ訓示左ノ如シ  
仲間中寄相會座の節相談人數御扶持方成の衆も被申達出席被仕候由相聞候御扶持方の衆は至極の困窮不得止御奉公を缺候儀に付身柄穩便の體勿論事候へは出合被仕間敷儀尤其席出席候様被申達候儀も中々不心得の事候仲間中相談一決の上知せ等は可有之儀候向後右體の趣有之節兼々其心得被致候様にとの御事

御扶持方衆

右仲間中其外寄相會座の節相談人數として出席被仕候面々も有之様に相聞候ふも方成の儀は至極の困窮を以不得止御斷申出御奉公を缺候儀に付段々被仰付候旨も有之穩便の體勿論の事候へは規式筋の儀にて無之候とても寄相談人數として急度參會の場所罷出候儀は可被致用捨儀殊に公儀向へ掛候儀は一入可有遠慮儀候處右の趣甚以不心得の儀に付向後の儀右體の趣は不及申惣て御書付等には無之儀も御ふち方の身分相應に慎の心得被致候様にとの御事



毛利十一代史卷之六十一

大田報助編次

觀光公記四

元文二年丁巳正月朔日公萩城ニ在リ

同日消防ノ制發令左ノ如シ大目付同狀

一火の元の儀召仕末々に至迄彌入念可申付候

一定火消の外近き比(虫)遠方の出火少々の火事にも御門番火の番防大名等罷出

御曲輪の内も騒敷如何(虫)食(御城風上或は御曲輪の内或は大火等の節は各

別無左時は見計罷出可然候若見違候て罷出候は、中途より罷歸候様に可致候

所々寄場へ罷出候輩も右の趣に可相心得候

右の趣可被相達候

十二月



廿八日毛利岩之允就公初テ甲冑ヲ着ス十三長府へ使ヲシテ太刀金馬代箱肴一種進セラル

同日宇田川夫人衰老末國與左衛門ニ直目付ヲ命シ奥番頭格ト爲ス

二月八日新陰平岡彌右衛門兵書多田藤右衛門ニ各銀二枚下付去々年去年明倫館皆勤ニ依テナリ

十一日訓令左之如シ

一御家頼中知行所立山並諸寺社境内の山にても採用の願申出候節餘分の儀に候は、此以後時々可被開召との御事に候木の大小により或は五十本以上或は百本以上と成とももの切有之向後は被達御開候様にとの御事

一知行所開作修補等の爲御立山を預りの願前々不達御開被差免の由候へ共此以後は時々被達御開候様にとの御事

一右の外唯今迄不達御開相澄來候義候ても當時二百目三百目以上の御貸銀等の儀迄被開召上儀候間右に準し其沙汰候て被達御開候様にとの御事

一萩廻其外諸郡在々にても斷の品有之候へは前々より芝居物差免の由候へ共當時の儀他の間も繁花之候様に可有之段いか敷被思召且は御國中の痛にも可相成事に候間向後萩廻は不及申在々端々迄も少々の儀にても差免間敷候然共若至極無據斷の品於有之は被達御開其御沙汰候様にとの御事

廿四日加判毛利宇右衛門江戸供從一人役ニテ屢勤勞ニヨリ紋付木綿羽織下付

廿七日當職毛利大藏伺書公聽ニ達シ肩書指令左ノ如シ

覺

一御家頼中知行所立山並寺社境内の山にても採用の願申出候節餘分の儀に候は此以後時々可被開召との御事候木の大小により或は五十本以上或は百本以上と成とも物切有之向後達御開候様にとの御事

此段給領山採用の儀此通に可被仰付候且又往還筋海上見入並古跡の寺社山採用の儀別て被入御念度御思食に御座候付無據儀有之候節は被達御開候様にと被思召候然共猶差間候儀も御座候は、其趣被仰開候は、可達御開候



右一所一村被渡遣候知行所の山採用の節は木敷の儀をも不申出都合の御届迄にて採用仕蓄格に御座候通向後ともに如古法被仰付可然存候一所一村の外知行所山の儀は木敷等委細に申出十歩一の運上被召上採用被差免來候然とも大木にて無之材木或は千葉大束等の類に相成候木は縦過分の員敷願出候ても大木に比へ候時は曾て餘分の儀にても御座なく候條右體の願申出候者自今も只今迄の通不達御聞採用被差免可相濟儀に御座候尤至極の大木過分の採用相願候節は其趣相伺沙汰可仕候且又往還或は海上見入の所或は古跡の寺社山採用の儀は大概差留可申候然共於無據趣は山荒不申見入の障に不相成様委細見分仕せ流例之通採用の可致沙汰過分の願に候は、是又御窺可申上候事

一知行所開作修補等の爲御立山を預りの願前々不達御聞差免候へ共此以後は時々達御聞候様との御事

此段達御聞

右の趣奉得其意候事

一右の外只今迄不達御聞相濟來候儀にても當時二百目三百目以上の御貸銀等の儀迄被聽召上儀候間右に準し其沙汰候て達御聞候様との御事

此段此通に可仰付との御事

右二百目三百目以上の御貸銀に準し小々の儀迄悉く相伺沙汰仕候時々當方差岡沙汰難仕可有御座候條舊例の通下々にて遂兪議沙汰仕可相濟様存候たとへ前々不相伺筋と相見候儀たり共非常の事にて廉有儀は自今相伺沙汰可仕候尤御留守の中は自然御窺申上候間相無之延引難成儀候は、右體の事たり共當役中申談兪議の上先致沙汰追て其趣可申上候事

一萩廻其外諸郡在々にて理の品有之候へは前々より芝居物被差免の由候ても當時の儀他の聞も繁花之候様可有之儀如何敷被思召且は御國中の痛にも可相成候に付向後萩廻は不及申在々端々迄も少々の儀にても被差免間敷候然とも若至極無據理の品於有之は達御聞其沙汰候様との御事



此段新規の儀は彌以不差免様にとの御事御座候被差免來候五ヶ所の儀日數被減先被差免候様との御事

右拙者御役に相成候ては萩廻にて芝居被差免候儀無御座候諸那在々の儀は無據願有之候節は令僉議前格より日數相減心得にて近年被差免來候ても向後の儀は大概差留可申候然共別紙付立の所々は去年より芝居被差免候所柄に付只今急度被差留候ては別て差問品により還て地下の痛にも相成候廉も可有御座哉と存候に付右在々の儀は近年の日數よりも猶又減候て自今も可差免哉事

此段委細達御聞置候

右前書の廉々當職役聽届舊格流例とも致僉議沙汰仕來候段古法の儀に候へ共此度改て被仰出候趣に隨ひ拙者存寄の所御窺仕候付被仰伺猶又肩書御調被下候は其筋を以沙汰可仕候尙御留守の儀は就中大切の儀付て尋常にては難相調可有御座と於拙者別て無心元存候尤御國中手廣き事に候故數々の御用巨細の儀迄悉御伺申上候様には不相成儀も御自分様御勘辨之前御座候間此等の趣とも被追御内聞置被下候へかしと存候以上

巳二月

毛利大藏

桂主殿様

別紙

覺

- 一小郡新市
- 一三田尻田島毛利大藏開作
- 一舟木藤曲毛利宇右衛門開作
- 一上關平生毛利彦二郎開作
- 一大島郡小松粟屋帶刀開作

右先年より芝居被差免候所柄前書の通に候事

同日阿曾沼六左衛門健奉行兼勘定宛役ヲ免シ多年勤務ニ因リ紋付羽織一下付



廿八日儒者小倉尙齋明倫館學頭十九年勤績ニヨリ紋付羽織一下付御什書御系圖掛  
永田瀨兵衛數十年勤勞ニヨリ召下上下一具下付坪井彦右衛門御手本用務數年ノ勞  
ニヨリ召下上下一具下付十文字岡部大八兵衛吉田七郎左衛門多田藤右衛門多年明  
倫館勤務ニヨリ各召下上下一具下付

此月田島質入賣買證文ノ制發令左ノ如シ備川十五代史

一名主加判無之質地證文の事

一名主置候質地は相名主又は組頭等の役人加判無之證文の事

一十年季を越し候質地證文の事

右三ヶ條儀の並田畑永代賣買又は地主より年貢諸役を勤金主は年貢諸役を  
不勤質地の類は前々より御停止にて村方五人組帳書記有之處右の通りの不  
埒の證文を以訴出候も有之處自今五人組帳名主庄屋等大小の百姓等へ度々  
爲讀聞不致忘却様可仕候

一享保元申年以來年季明候質地は自今年季明十ヶ年過訴出候は、取上無之事

一金子有合次第可請返旨證文に有之質地は質入の年より十ヶ年過訴出候は、取  
上無之事

右二ヶ條自今十ヶ年の内訴出候は、取上裁斷有之候右年數過候分は取上無  
之事

右の通村々にて可相心得者也

三月朔日手元役長沼九郎右衛門ニ郡奉行役兼務ヲ命ス毛利四郎左衛門目付役ヲ免

ス

三日毛利外記廣包ニ加判役ヲ命ス

四日臺所頭積山八右衛門膳夫役ヨリ本年ニ至ル六十三年勤績ニヨリ金十兩下付

五日公萩發駕山内縫殿廣通公出府留守中加判役ヲ命ス

十日熊野才右衛門ニ金二百疋下付馬場先夫人卒去ノトキ弔問使トシテ出府セシニ

因テナリ羽仁五郎左衛門京都ヨリ歸國ニツキ金三百匹下付

十八日貨幣ノ制發令左ノ如シ大目付同狀



文字金銀出来方少く候故當分割合にて通用候得共段々文字金銀出来候付金銀  
共に割合にて通用候儀當年中を限來午正月より割合通用相止先達て相觸候通  
慶長金新金は百兩の代り文字金百兩乾字金二百兩の代り文字金百兩慶長銀新  
銀は十貫目の代り文字銀十貫目の積り請取方渡方兩替共に通用可致候午正月  
より割合遣仕候もの於有之は急度可申付事  
一金銀引替に付増歩の儀當十二月迄は只今迄の通相渡來午正月より引替金百兩  
に付増歩三十兩引替銀十貫目に付増歩二貫目宛可相渡候間此節より随分精出  
し金銀ともに引替可申込事  
右條々國々所々にて此旨可存候

巳三月

廿一日加判役福原豊後辭職ヲ許ス

廿五日松平下總守忠雅室綱康公息女類子死去年五十一法名淨徳院

四月六日公着府諸事如例

十一日仙洞崩御中御門諸大名出仕二十四日ヨリ鳴物停止五日間使者小笠原仁左衛

門ヲ上京拜弔五月十九日香奠銀十枚ヲ泉涌寺ニ納シム仁左衛門四月二十九

十六日關老ノ書到ル増上寺火防ノ命ヲ傳フ

十八日江戸留守居益田圖書賜暇歸國ニツキ數年ノ功勞ニヨリ老中ニ任シ銀三十枚  
下付

廿日乘輿ノ制發令左ノ如シ

一五十歳以下の面々月切乗物斷前々と遠近來は數多有之様に相聞候尤病氣痛所  
等にての事には候へ共如何成御沙汰にも候向後萬石以下の面々月切乗物の儀  
被相止候依之五十歳以下の分馬上計にて難相勤分月切駕籠たるへき事

但陪従も萬石以下は同前の事

一右駕籠の儀見分ともに乗物に紛れ不申様に可致尤駕籠の者衣類紋所付不申無  
紋にいたし對の衣類着させ候儀可爲無用事

一只今迄月切乗物誓詞仕候分駕籠に仕候付て改て誓詞仕直し可申事



一只今迄月切乗物不相叶分は日切駕籠も不相叶候事

一月切駕籠の面々下乗迄駕籠乗候儀無用に候下馬迄乗可申事

右の通可被相達之候

四月廿日

廿一日閑老少老及寺社奉行大目付以下十餘人ヲ招テ饗應セラル五月二日三日マタ同列諸侯親族其他ヲ招テ饗宴アリ公家督ノ後衆賓ヲ招テ享待セラルヲ例ト爲ス然ルニ災後修築功ヲ竣ヘテ客年十月ヨリ頃日ニ至リ正寝始テ成ル於是此享筵ヲ開カ

廿三日加判毛利外記廣包死去十年五嫡子市正ニ弔書ヲ以テ香奠銀三枚下付

五月三日江戸大火東叡山山本坊亦罹災

廿二日家重大納言世子誕生名ヲ竹千代ト稱ス後家公之ヲ賀シ將軍父子ニ各樽一荷箱肴一種世子ニ刀備前國大脇屋青江次箱肴二種産衣一襲上唐織産婦四城侍女ニ白銀十枚ヲ呈セラ

廿五日玉川上水組合大通戸樋修築ニツキ高割出銀高三十六萬九千四百一十一石ニ對スル出銀二貫八十八匁一分三厘六毛高百石ニツキ銀五分六厘五毛ニ納付セラル廿九日海潮寺制札従前ノ案文法幢地ノ格ニ合サルヲ以諸山ノ格ニ準シ改正ノ請願ヲ許サル

禁制

海潮寺

一於寺中殺生之事

一濫妨狼藉之事

一參詣の輩不行儀之事

右之條々若違犯の族於有之は可被處嚴科之旨依仰如件

元文二年五月 日

大藏

六月朔日小性役井原小兵衛品定ノ訓令ヲ忘却シ謁見ノ席ニ於テ目付役ヲ罵倒セシハ公邊ヲ輕蔑シタルモノニツキ免職歸國ヲ命ス

三日備前岡山千右衛門越後國酒井佐衛門尉所管城米搭載去九日大津郡阿川浦ニ碇



繁中風波ノ爲十七艘破船セシニヨリ大坂城米支配ノ代官所報告ノ旨幕府へ上陳セラル

五日毛利市正ニ外記跡職ヲ命シ高一萬十二石二斗四升七合ノ地ヲ領セシム

十二日檢使津田六郎右衛門邸舎ニ於テ印章ヲ窃取セラレタルハ職責緩怠ニヨリ逼

塞ヲ命ス

十六日西城へ月次出仕ノ制左ノ如シ大目付同狀

西丸へ出仕ノ覺

月次

朔日

一御三家並松平加賀守溜詰御譜代衆詰衆御奏者番嫡子共に高家御留守居大番頭

十五日

一萬石以上並嫡子

一交替寄合の内表向より御禮罷出候分

一表高家

一金地院

一護持院

廿八日

一布衣以上御役人

一交替寄合

一三千石以上の寄合

一布衣以上の寄合

一法印法眼の醫師

一中奥御小性

一同御番

右の通可被達候

廿四日三十人通横山與左衛門筋目違ノ養子ヲ出願シタルハ公邊ヲ掠メ違法ノ行爲



ニ因リ家人ヲ放ッ願書ニ代判ナセシ山田太右衛門ニ逼塞ヲ命ス

廿五日宇田川夫人有馬左衛門分婉水谷榎五郎出生此月河堤修築ノ制發令アリ長文

略録川實紀

七月十六日洞春寺執拂願ヲ許シ銀六貫目貸與ス乗拂トモアリ借

十八日豊後國日田郡代官所城米船二百六十石積一隻去月六日長門國豊浦郡沖ノ島

ニ於テ破船ス之ヲ幕府ニ報告ス

同日貨幣之制發令左ノ如シ大目付同狀

文字金銀段々出來引替致通用候得共遠國へはいまた不行渡所も有之候様に相聞引替薄く候且又來午正月よりは割合道ひ相止並増歩相減可相渡段は先達て相觸候通に候間彌其通に可相心得候就夫當冬に至り急に引替多く申出候ては金高出來方差支引替相渡候儀手間取可致難儀候條此節より引替無滯様に領内家中並町方の方へ可被申渡候國々より引替候金銀江戸京大坂へ差越候儀思々にては手廻し成兼候所も可有之候間領主々々より急度世話引替させ無滯行渡り候様可被致

候

巳七月

四日驛路ノ制發令左ノ如シ松平大隅守藩堂和泉守ヨリ同狀

口達覺書寫

參勤交代其外道中往來の節本陣にて被相極候旅籠錢等たとへは百錢に極候内を於下陣は引錢と申三十錢別或は四十錢程宛減渡候付旅籠屋共承引不致候へは脇宿へ替可申なと申掛け其支度費になり候故無是非引けを取請取旅籠屋共致迷惑候由相聞へ候畢竟末々の者致候事と存候自今右體の儀無之様に道中被召連候末々のもの迄急度可被申付候

六日公儀人上山庄左衛門ニ記録所役ヲ命ス

十日諫早彌二右衛門嫡子彌三郎發狂禁錮後逃亡ニヨリ彌二右衛門ニ逼塞ヲ命ス

廿五日貨幣ノ制發令左ノ如シ大目付同狀

國々より出候灰吹銀銅よりしほり出候銀並銀道具潰銀等前々より銀座へ持來買